

平成22年度(平成21年度対象)

三豊市教育委員会 点検・評価報告書

平成22年8月

三豊市教育委員会

目 次

1 はじめに	1
2 教育委員会活動の状況	1
(1) 教育委員会議の開催状況	1
(2) 教育委員会議の審議状況	1
(3) 教育委員会活動の概要	7
(4) 教育委員会に関わるその他の主な活動	10
3 具体的な推進施策の取組状況評価	12
(1) 点検・評価の対象	12
(2) 点検・評価の方法	13
(3) 点検・評価員会開催日及び協議事項	13
(4) 点検・評価結果の構成	14
(5) 総合評価と各項目別評価の状況	15
(6) 点検・評価結果	16
① 幼児期の教育方針	16
② 小学校・中学校の方針	24
③ 学校等施設耐震化の推進	35
④ 生涯学習の方針	36
⑤ 青少年の健全育成	44
⑥ 人権教育の推進	46
資 料	
1 教育委員会委員及び組織	49
2 公立学校施設の概要	50

1 はじめに

この報告書は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条の規定に基づき、平成21年度の教育委員会活動を振り返るとともに、本市教育委員会が毎年度示す「三豊市の教育方針」を基に、具体的な推進施策について教育委員会自ら事務の進捗状況について点検・評価を行いました。

2 教育委員会活動の状況

(1) 教育委員会議の開催状況

教育委員会議については、定例会は毎月一回開催、臨時会は必要に応じて開催。平成21年度は合計15回開催しました。

- ① 定例会 …… 12 回
- ② 臨時会 …… 3 回

(2) 教育委員会議の審議状況

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第23条に定める職務について、同法第26条及び「三豊市教育長に対する事務委任等規則」の規定に基づき、平成21年度は合計で47件について審議いたしました。

- ① 教科用図書を採択すること…………… 1 件
- ② 教育委員会事務局及び学校その他の教育機関の職員(県費負担教職員を除く。)の任免その他の進退を行うこと…………… 2 件
- ③ 県費負担教職員の任免その他の進退について内申を行うこと…………… 1 件
- ④ 教育委員会規則を制定し、及び改廃すること…………… 18 件
- ⑤ 教育委員会の所管に属する各機関及び委員会の委員の任免又は委嘱若しくは解職に関すること…………… 5 件
- ⑥ 就学援助費の認定及び奨学生選考等に関すること…………… 18 件
- ⑦ その他…………… 2 件

○平成21年度 教育委員会審議案件等一覧

開催日時	議案番号	協議事項
H21.4.27(月) (定例会)	議案第1号	平成21年度三豊市奨学金貸付申請の認定について
	議案第2号	平成21年度準要保護児童生徒の認定について
	議案第3号	三豊市立小学校・中学校の通学区域及び学校の指定に関する規則の一部を改正する規則(案)について
	議案第4号	三豊市立幼稚園の通園区域及び園の指定に関する規則の一部を改正する規則(案)について
	議案第5号	三豊市学校給食検討委員会設置条例(案)について
	議案第6号	三豊市就学前教育・保育検討委員会設置条例を廃止する条例(案)について
	議案第7号	三豊市就学前教育・保育検討委員会会議運営規則を廃止する規則(案)について
	議案第8号	三豊市就学前教育・保育検討委員会会議傍聴規則を廃止する規則(案)について
	議案第9号	公民館分館長候補者の推薦について
H21.5.26(火) (定例会)	議案第1号	三豊市図書館協議会委員の任命について
	議案第2号	三豊市学校給食検討委員会設置条例(案)について
	議案第3号	三豊市就学前教育・保育検討委員会会議運営規則を廃止する規則(案)について
	議案第4号	三豊市就学前教育・保育検討委員会会議傍聴規則を廃止する規則(案)について
	議案第5号	平成21年度準要保護児童生徒の認定について
	議案第6号	三豊市立幼稚園保育料条例施行規則の一部を改正する規則(案)について
	議案第7号	平成21年度学校評議員の委嘱について
	議案第8号	平成21年度幼稚園評議員の委嘱について
H21.6.23(火) (定例会)	議案第1号	平成21年度準要保護児童生徒の認定について
H21.7.28(火) (定例会)	議案第1号	三豊市奨学金貸付の認定について
	議案第2号	三豊市学校給食検討委員会について
	議案第3号	三豊市立幼稚園保育料減免措置の認定について
	議案第4号	準要保護児童生徒の認定について
	議案第5号	平成22年度使用中学校教科用図書採択について

開催日時	議案番号	協議事項
H21.8.28(金) (定例会)	議案第1号	三豊市奨学金貸付の認定について
	議案第2号	準要保護児童生徒の認定について
	議案第3号	地区公民館主事の任命について
	議案第4号	新型インフルエンザの対応について
H21.9.24(木) (定例会)	議案第1号	準要保護児童生徒の認定について
H21.10.15(木) (臨時会)	議案第1号	平成22年度 保育所・幼稚園管理職登用選考試験について
H21.10.22(木) (定例会)	議案第1号	要保護・準要保護児童生徒の認定について
H21.11.18(水) (定例会)	議案第1号	準要保護児童生徒の認定について
H21.12.17(木) (定例会)	議案第1号	要保護・準要保護児童生徒の認定について
H22.1.19(火) (定例会)	議案第1号	三豊市学校給食センター事務処理に関する規程の一部を改正する訓令の一部を改正する訓令について
	議案第2号	準要保護児童生徒の認定について
H22.2.24(水) (定例会)	議案第1号	三豊市奨学金貸付条例・規則の一部改正及び三豊市同和対策就学・就園奨励資金交付要綱の一部改正について
	議案第2号	三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会設置条例(案)について
	議案第3号	三豊市奨学金貸付申請の認定について
	議案第4号	要保護・準要保護児童生徒の認定について
H22.3.15(月) (臨時会)	議案第1号	小・中学校人事異動について
	議案第2号	幼稚園等の人事異動について
H22.3.24(水) (定例会)	議案第1号	三豊市教育委員会の事務局の組織に関する規則の一部を改正する規則(案)について
	議案第2号	三豊市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部を改正する規則(案)について
	議案第3号	三豊市教育委員会職務権限規程の一部を改正する訓令(案)について
	議案第4号	三豊市奨学金貸付申請の認定について
	議案第5号	平成21年度3月分準要保護児童生徒の認定及び平成22年度要保護・準要保護児童生徒の認定について

開催日時	議案番号	協議事項
H22.3.24(水) (定例会)	議案第6号	三豊市立学校児童生徒大会出場補助金交付要綱の一部を改正する告示(案)について
	議案第7号	三豊市立学校児童生徒大会出場補助金交付に関する事務取扱要領の一部を改正する告示(案)について

○平成21年度 教育委員会議 報告等一覧

開催日時	報告番号	報告事項
H21.4.27(月) (定例会)	報告第1号	公民館主事の任命について
	報告第2号	読書活動推進計画について
	報告第3号	社会教育関係団体連絡協議会事務局の設置について
	報告第4号	宗吉瓦窯跡史跡公園落成式及び落成記念講演会について
H21.5.26(火) (定例会)	報告第1号	新型インフルエンザ対策について
	報告第2号	三豊市高瀬町農村環境改善センター古文書・民具移転について
	報告第3号	三豊市少年育成センター運営協議会役員選任について
H21.6.23(火) (定例会)	報告第1号	三豊市学校給食検討委員会委員選任について
	報告第2号	三豊市学校給食検討委員会への諮問について
	報告第3号	三豊市青少年健全育成市民会議 平成21年度会員選任について
	報告第4号	三豊市補導員会 平成21年度委員選任について
	報告第5号	平成21年度三豊市・洞爺湖町友好都市少年交流事業について
H21.7.28(火) (定例会)	報告第1号	宗吉かわらの里展示館について
	報告第2号	高瀬環境改善センター内の民具の移転について
	報告第3号	町史等の保管状況について
	報告第4号	平成21年度B&G海洋性レクリエーション指導員 (第11回アドバンストインストラクター養成研修)
	報告第5号	点検・評価報告書(案)について
	報告第6号	香川県中学校総合体育大会の結果報告
	報告第7号	三豊市市歌選考委員会の委員選任について
	報告第8号	B&G海洋センターの事故についての経過報告
	報告第9号	2009三豊市連絡協議会の要求書に対する回答書について
H21.8.28(金) (定例会)	報告第1号	点検・評価報告書(案)について
	報告第2号	平成21年度4月～7月における ①健全育成活動 ②補導活動 ③少年相談活動の各状況について
	報告第3号	三豊市学校給食検討委員会(第1・2回)について
	報告第4号	分館長及び主事の任命について
	報告第5号	社会教育委員会、公民館運営審議会について
H21.9.24(木) (定例会)	報告第1号	「青少年健全育成講演会事業」の開催スケジュールについて
	報告第2号	三豊市内の文化祭について(市・各町日程等)

開催日時	報告番号	報告事項
H21.10.22(木) (定例会)	報告第1号	第4回 三豊市学校給食検討委員会について
	報告第2号	「家族ふれあい・あいさつ運動」の絵画・標語作品募集結果について(主催:青少年健全育成市民会議)
	報告第3号	生涯学習推進計画策定委員会設置要綱の制定について
	報告第4号	三豊市弓道場(遠的場)新築工事について
	報告第5号	平成22年「三豊市成人式」の開催について
H21.11.18(水) (定例会)	報告第1号	第5回 三豊市学校給食検討委員会について(11月25日開催)
	報告第2号	学校給食食材の理化学検査の結果について
	報告第3号	生涯学習推進計画策定委員応募について
	報告第4号	青少年健全育成講演会の開催について(中間報告)
H21.12.17(木) (定例会)	報告第1号	学校給食費について
	報告第2号	第6回 三豊市学校給食検討委員会について(12月16日開催)
	報告第3号	生涯学習推進計画策定委員の決定について
	報告第4号	耐震診断結果について
H22.1.19(火) (定例会)	報告第1号	生涯学習推進計画策定委員の決定について
	報告第2号	「養老孟司講演会」(12月12日開催)の実施結果について
	報告第3号	補導活動等の状況について(2学期分)
H22.2.24(水) (定例会)	報告第1号	三豊市学校給食検討委員会答申書(案)について
	報告第2号	少年育成センターのホームページのあり方について
H22.3.1(月) (臨時会)	報告第1号	三豊市学校給食検討委員会答申書について
H22.3.24(水) (定例会)	報告第1号	平成22年第1回三豊市議会定例会について
	報告第2号	生徒指導・職員事故等の報告について

(3) 教育委員会活動の概要

① 保育所・幼稚園・小学校・中学校指導訪問

実施日程	平成21年5月25日 ～ 平成21年11月27日
参加者	教育委員5名、主任指導主事2名、指導主事1名、事務局2名
訪問先	保育所5所、幼稚園20園、小学校25校、中学校6校
訪問内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・幼稚園・保育所経営説明 ・給食指導 ・全体指導 ・講評 ・保育・授業参観 ・個別指導 ・諸帳簿検査

学校指導訪問日程(学校の生徒数・クラス数・教員数に応じて、1日及び半日を決めています)

月	日	曜日	学校名	日程	教育委員	指導主事・事務局
5	25	月	大見小学校	午前	武田委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
			松崎小学校	午後	武田委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
6	4	木	吉津小学校	午前	西村委員長 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
			比地小学校	午後	西村委員長 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	15	月	大野小学校	午前	三池委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
			本山小学校	午後	三池委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	17	水	詫間小学校	一日	建林委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	22	月	詫間中学校	一日	三池委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	26	金	高瀬中学校	一日	西村委員長 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	29	月	財田幼稚園	一日	三池委員 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	30	火	曾保小学校	午前	武田委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
			仁尾中学校	午後	武田委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
7	1	水	比地二幼稚園	一日	西村委員長 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名

月	日	曜日	学校名	日程	教育委員	指導主事・事務局
7	2	木	箱浦幼稚園	一日	武田委員 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	3	金	箱浦小学校	午前	建林委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
			大浜小学校	午後	建林委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	6	月	河内幼稚園	一日	三池委員 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	8	水	三野津中学校	午前	建林委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
			下高瀬小学校	午後	建林委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	9	木	上高瀬幼稚園	一日	西村委員長 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	10	金	松崎幼稚園	一日	建林委員 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
9	9	水	豊中保育所	一日	建林委員 臼杵教育長	主任指導主事1名 指導主事1名
	15	火	須田保育所	一日	武田委員 臼杵教育長	指導主事1名
	25	金	辻幼稚園	一日	西村委員長 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	29	火	詫間幼稚園	一日	建林委員 臼杵教育長	主任指導主事1名 指導主事1名・事務局1名
10	2	金	麻幼稚園	一日	武田委員 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	6	火	下高瀬幼稚園	一日	武田委員 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	8	木	勝間幼稚園	一日	建林委員 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	9	金	麻小学校	午前	武田委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
			二ノ宮小学校	午後	武田委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	13	火	上高瀬小学校	午前	西村委員長 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
			勝間小学校	午後	西村委員長 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	14	水	財田中小学校	午前	三池委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
			財田上小学校	午後	三池委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
16	金	山本保育所	一日	三池委員 臼杵教育長	主任指導主事1名 指導主事1名	

月	日	曜日	学校名	日程	教育委員	指導主事・事務局
10	19	月	大見幼稚園	一日	西村委員長 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	20	火	辻小学校	午前	三池委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
			河内小学校	午後	三池委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	22	木	財田保育所	一日	西村委員長 臼杵教育長	指導主事1名
	23	金	比地大小学校	午前	武田委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
			上高野小学校	午後	武田委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	26	月	笠田小学校	午前	建林委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
			桑山小学校	午後	建林委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	27	火	二ノ宮幼稚園	一日	三池委員 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	28	水	豊中中学校	一日	西村委員長 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	29	木	吉津幼稚園	一日	建林委員 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
30	金	仁尾小学校	一日	武田委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名	
11	5	木	高瀬中央保育所	一日	建林委員 臼杵教育長	主任指導主事1名 指導主事1名
	10	火	豊中幼稚園	一日	武田委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 指導主事1名・事務局1名
	12	木	大野幼稚園	一日	西村委員長 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	13	金	和光中学校	午前	三池委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
			神田小学校	午後	三池委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局1名
	17	火	神田幼稚園	一日	三池委員 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	20	金	平石幼稚園	一日	武田委員 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	25	水	曾保幼稚園	一日	建林委員 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
27	金	大浜幼稚園	一日	西村委員長 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名	

② 三豊市教育協議会

実施日程 平成21年12月17日(木) 午後2時30分～午後4時45分

参加者 議長・教育民生常任委員長

三豊市教育委員5名、三豊市・観音寺市学校組合教育委員4名

教育委員会事務局 部長・課長等 10名

主任指導主事 2名、指導主事 1名

健康福祉部 子育て支援課 2名(課長・保育所担当)

小・中学校校長33名、幼稚園長20名、保育所長等10名

協議内容

- 幼稚園、小学校、中学校 代表園長・校長取組発表
- 県外合同視察研修報告
幼稚園部門、学習指導部門、生徒指導部門
- 意見交換

(4) 教育委員会に関わるその他の主な活動 (教育委員が出席した主な活動等)

月	各種行事・大会等	
	三豊市関係	国・県関係
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中学校教職員赴任式 ○ 幼稚園入園式、小・中学校入学式 ○ 保育所長・幼稚園長・小中学校長合同 研修会 ○ 小中教頭会 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 香川縣市町教育委員会・教育長会議 ○ 西部地区教育長会 ○ 三観小中学校教育協議会
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育所長・幼稚園長・小中学校長合同 研修会 ○ 子ども会育成連絡協議会 ○ 自治会長会 ○ 文化協会総会 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 香川縣市町教委連絡協議会総会 ○ 四国都市教育長連絡協議会 ○ 三観地区教育委員会連絡協議会 春季総会
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市議会6月定例会(本会議・一般質問) ○ 青少年健全育成市民会議総会 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中学校長研修会 ○ 小学校水泳記録会 ○ 学校給食検討委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 西部地区教育長会 ○ 三観小研校長研修会 ○ 香小研生活部会夏季研修会

月	各種行事・大会等	
	三豊市関係	国・県関係
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育所長・幼稚園長・小中学校長合同研修会 ○ 学校給食検討委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 香川縣市町教委連絡協議会教育長部会運営委員会 ○ 香川縣市町教委連絡協議会理事会
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市議会9月定例会(本会議・一般質問) ○ 幼稚園・小中学校運動会 ○ 学校給食検討委員会 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中学校長合同研修会 ○ 小中学校教頭研修会 ○ 学校給食検討委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 香川縣市町教委連絡協議会教育長部会研究集会・委員研修会 ○ 西部地区教育長会
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市議会臨時議会 ○ 文化講演会 ○ 学校給食検討委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三観地区教育委員会連絡協議会秋季総会
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市議会12月定例会(本会議・一般質問) ○ 三豊市教育協議会 ○ 学校給食検討委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 西部地区教育長会
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市成人式 ○ 学校給食検討委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三観地区教育委員会連絡協議会視察研修 ○ 西部地区教育長会
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市議会臨時議会 ○ 保育所長・幼稚園長・小中学校長合同研修会 ○ 小中学校教頭研修会 ○ 事務事業点検・評価員会 ○ 学校給食検討委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 香川縣市町教育委員長・教育長会議
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市議会3月定例会(本会議・一般質問) ○ 小中学校長研修会 ○ 幼稚園修了式 ○ 小中学校卒業式 ○ 小中学校教職員離任式 	

3 具体的な推進施策の取組状況評価

(1) 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、本市教育の総合的な指針である「三豊市教育方針」に基づく平成21年度の重点課題の項目としています。

○ 評価項目の一覧

1 幼児期の教育方針	① 信頼される幼稚園
	② 幼稚園教育の充実
	③ 子育て支援の充実
	④ 子どもの成長を支える連携
2 小学校・中学校の方針	① 信頼される学校
	② 確かな学力の向上
	③ 豊かな心の育成
	④ 健やかな体の育成
	⑤ 社会の変化に対応する力
3 学校等施設耐震化の推進	子どもたちが安全な学校施設で、安心して学ぶことができる教育施設等の整備
4 生涯学習の方針	① 自ら学び、生きがいを創造する生涯学習の推進
	② 特色ある地域文化の醸成
	③ 地域の教育力の向上、地域の教育機能の活性化
	④ 家庭の教育力の向上
	⑤ 進んで運動に親しむ機会の充実
5 青少年の健全育成	青少年教育の充実
6 人権教育の推進	① 学校人権教育の推進
	② 社会人権教育の推進

(2) 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、主管課において、重点課題に対して実施した事業ごとに点検・評価を行い、教育委員会は、各主管課の評価をもとに重点課題の項目ごとに評価を行いました。

また点検・評価にあたっては、教育に関し学識経験等を有する方のご協力を得て、点検・評価委員会を開催し、さまざまな意見や助言を得ました。

助言等をいただいた方は、次のとおりです。

(敬称略)

氏名	所属
山神 眞一	香川大学教育学部教授
中田 清	元学校長
小林 静夫	公民館運営審議会会長
池田 たか子	主任児童委員代表
畑 典子	三豊市PTA連絡協議会代表

(3) 点検・評価委員会開催日及び協議事項

開催日	参加者	協議事項
H22.2.9 (火)	点検・評価員 教育長・教育部長 教育委員会事務局 関係各課長ほか	<ul style="list-style-type: none">教育委員会の事務事業の点検・評価の概要について平成21年度三豊市教育方針について説明平成22年度三豊市教育委員会点検・評価のスケジュールについて
H22.4.26 (月)	点検・評価員 教育長・教育部長 教育委員会事務局 関係各課長ほか	<ul style="list-style-type: none">平成22年度三豊市教育委員会点検・評価表について平成22年度三豊市教育委員会点検・評価報告書(案)について平成22年度三豊市教育方針について
H22.6.8 (火)	点検・評価員 教育長・教育部長 教育委員会事務局 関係各課長ほか	<ul style="list-style-type: none">平成22年度三豊市教育委員会点検・評価報告書(案)について

(4) 点検・評価結果の構成

① 評価対象

「平成21年度三豊市教育方針」の6つの重点課題の項目ごとに点検・評価を行っています。

② 具体的な取組内容及び実施した事業内容

各重点課題の目標達成に向けて、主に取り組んだ事業内容等を示しています。

③ ○得られた成果 ●課題と今後の取組み

事業を実施したことによって得られた成果及び課題等を示しています。

④ 内部評価

計画目標に対し、取組みの進捗状況等を踏まえ、外部の方々からのご意見を参考にしながら、客観的にA～Eの5段階評価を行っています。

(評価判断基準)

A ……十分な成果を得た

B ……ほぼ成果を得た

C ……ある程度の成果を得たが、多少の改善検討が必要

D ……満足のいく成果が得られず、事業の見直しが必要

E ……中止、廃止

⑤ 担当課等

事業を実施した担当課等の名称を示しています。

(5) 総合評価と各項目別評価の状況

点検・評価委員会の総合評価と各項目別評価

総合評価		全体評価
(全体評価)		「三豊市教育方針」に基づいた重点課題及び評価様式が整備され、2年目を迎えて今年度の施策目標は、概ね達成できていた。また、施策目標に応じた評価項目が整理され、次年度への課題や改善点が明確になってきたことは評価できる。
（ 項 目 別 評 価 ）	①幼児期の教育方針	個々の子どもの発育発達への支援を大切にした幼稚園教育をめざして、教育内容の充実や園内研修などに積極的に取り組んでいる。その成果が家庭や地域との連携協力に表れてきている。ただし、子どものより良い生活習慣の定着にはさらに継続的な働き掛けが必要であると思われる。
	②小学校・中学校の方針	小・中学校ともに、安全・安心な学校づくりを基盤として、学力の向上、豊かな心と健やかな体の育成に積極的に取り組み、子どものより良い生活習慣づくりに関する協同的な工夫努力を行っている。課題としては、社会の変化に対応する力や道徳教育など人としての生き方に関する教育の推進にさらに力を入れていく必要がある。
	③学校等施設耐震化の推進	学校等施設の耐震化の整備計画は、耐震診断の結果の公表や学校施設耐震化率の向上など確実に成果を収めている。耐震化率に関しては、86%を達成し、香川県、全国平均を大きく上回っていた。
	④生涯学習の方針	人と地域がふれあい、人と文化を育てるまちづくりをねらいとして、年齢を超えた生きがいつくりにつながる生涯学習の推進に多方面の活動・事業を行政主導から住民参加型をめざした実践が大いに評価できる。今後は地域に密着した事業内容の活動・交流にさらに力を注いでほしい。
	⑤青少年の健全育成	「見守り隊」や「子どもを守る会」など地域の協力体制に支えられて、青少年の健全育成の成果の充実が図られている。今後も学校、家庭、地域、及び警察その他の機関との相互信頼のもと、連携協力を強化していきたい。
	⑥人権教育の推進	保・幼・小・中学校の人権教育は、学校人権教育部会や学校人権教育研究協議会を中心として、日常的な取り組みが行われている。ただ、全学校での公開授業や研修会の実施に関しては、まだまだ十分であるとは言えない状況にある。

(6) 点検・評価結果

① 幼児期の教育方針		
基本方針	心身ともに健やかに成長するための教育の推進	
項目	① 信頼される幼稚園	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>(1) 特色ある幼稚園経営</p> <p>① 新幼稚園教育要領を下に、子どもの発達や地域の実態に即した教育課程を編成し、それぞれの特色を生かした幼稚園の経営に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の反省と幼児の実態にあわせて教育課程を再編成する。 ・目標申告・評価表を作成し、園・学級経営に反映させる。 ・地域や保護者の意見を取り入れ行事の見直しをする。 <p>② 保護者総会や保育参観等で、教育方針や取組などを積極的に説明し、関係者から様々な意見をもらって、経営の改善に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会や保育参観で、保護者へ教育方針の説明や学校評議員へ園経営の説明をする。 ・保護者へのアンケートの実施及びその集計や質問の回答を配布する。 	<p>○ 幼児の実態を知ることで、各学年の教育課程を見直した。</p> <p>○ 園の方向性や具体的な手段を示すことで職員の共通理解につながった。</p> <p>○ 行事の内容や取組みの変化により、マンネリ化が防げている。</p> <p>● 園の実態を考え、できることを継続していく。</p> <p>● 家庭・地域・園がそれぞれの役割を果たせる教育内容を再検討する。</p> <p>● 計画的に園内研修を行い、方向性や子どもの育ちを捉えていく。</p> <p>○ 保護者や学校評議員に今年度の取り組みを知らせることで、理解や協力を得ることができた。</p> <p>○ アンケート等で具体的な保護者の意見、感想、要望を知り、それに対応していくことで成果を得ている。</p> <p>● 一部の保護者から意見を聞く機会がないので、機会を逃さずに保護者と話す場を作っていく。</p> <p>● 経営に活かせるようなアンケートや評価項目の検討が必要である。</p>	C
<p>(2) 職員の資質向上</p> <p>① 子ども一人一人を大切にするために、個に応じた言葉かけをしたり、じっくりと話を聞いたりして、乳幼児理解に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保幼の合同研修で外部から専門家を招き、事例研修を行ない、その指導を受ける。 ・個人記録や保育の事例を基に、園内で話し合う。 	<p>○ 合同で研修をすることで、自分の保育内容・保育技術の反省・課題につながっている。</p> <p>○ 園内研修を重ねることで多様な視点で幼児を観ることができ、一人一人に応じた指導・援助につながってきた。</p> <p>● 全職員で全園児を見て情報を交換し、幼児理解するための体制づくりをする。</p> <p>● 全職員が参加して事例研修を行なうための時間確保をする。</p> <p>● 教師がゆとりをもち、待つ姿勢・見守る姿勢を大切にしている。</p>	C
担当課	学校教育課	
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p> <p style="text-align: right;">E・・・中止、廃止</p>	

項目	① 信頼される幼稚園	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>② 子どもが安全で安心して教育を受けられるように、職員の危機管理意識を高め、月1回の遊具の安全点検や年間計画に応じた避難訓練を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員が月1回の遊具や施設の安全点検をする。 専門機関と連携した不審者・地震・火災に対する避難訓練をする。 昨年度の反省を基に避難訓練の内容や時間見直し、自園に適した具体的な計画を立て実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 月1回の安全点検を実施することで、職員の安全管理意識の高まりが見られた。 ○ 定期的な訓練や専門機関から具体的な指導を受けることで、職員がマニュアルどおりではなく、状況に応じた行動が取れるようになってきている。 ● 職員の危機管理意識がまだ薄いように思うので、内容・形態などを検討していきたい。 ● 幼児に恐怖心を持たせないような不審者対応の訓練の仕方を考えていく必要がある。 ● 避難訓練等の実施後、職員間で反省点を出し合い、改善策を見つけていく。 	C
(3)園内研修の充実		
<p>① 全職員が統一した意識で教育に取り組むために、教育方針や内容などの園内研修を計画的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度当初に、全職員で今年度の課題と進めていきたい保育内容について検討する。 幼児の実態から学級経営の目標を出し、園の育てたい幼児像につなげるための研修の時間をもつ。 園内研修のテーマを基に、遊びの内容・環境構成や指導方法を各年齢で検討する。 <p>② 発達や学びの連続性を大切にするために、幼稚園・保育所と小学校が互いに教育・保育内容を学びあう、幼保小合同研修の機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 就学前保幼合同研修会に年間を通して参加し、保育内容や子どものかかわりなどについて話し合いをする。 小学校との交流を定期的に行い、授業を見たり話し合いをしたりしている園も多い。 <p>③ 実践保育や事例協議等を積み重ね、個々の子どもを理解するための研修に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究保育や事例研修を通して、お互いの保育や幼児理解を行う。 日々の話し合いを大事にしていき、職員間の連携と保育観の統一と課題の明確化を図る。 園内の研修では、自分の意見を言う場を必ず持つようにしている園もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育方針、研修テーマについての共通理解ができた。 ○ 育てたい幼児像を明確化することで取組が具体化される。 ○ 全職員が園内研修内容に沿って研修を重ねることで職員間の意識統一ができた。 ● 年度当初の計画が、行事や忙しさのためできないことがあったので、効率のよい園内研修をしていきたい。 ● 園児の家庭環境の違いや保護者のニーズの多様化に、どこまで対応できるかが課題である。 ● 担任や預かり保育者、特別支援員など勤務形態の違いから、全員での研修時間が持ちにくい。 ○ 同じテーマに基づいて研修することにより、幼保互いの保育・教育内容を知り、幼児理解や連携を深めている。 ○ 保育所や小学校の学習や保育、また生活の様子を見て、互いのよさや見直す点がわかった。 ● お互いの意見を受け入れたり違いを認めたりできるようになってきたので、指導内容を理解し保育に活かせる研修の在り方を工夫していきたい。 ○ 実践保育をすることで教材研究ができたり、お互いの保育を見ることで刺激しあい職員の資質向上につながっている。 ○ 日々の保育を見直す習慣ができ、幼児を多面的に見ていく意識が高まり、職員の連携が図れた。 ● 幼稚園教諭免許を有しない職員も多いため、全職員が幼児への言葉かけや見方など子ども理解につながる研修時間を確保していく。 ● 特別支援を要する幼児への指導・支援についてはさらに研修していく必要がある。 	C
担当課	学校教育課	
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た B・・・ほぼ成果を得た C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要 D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要 E・・・中止、廃止</p>	

項目	② 幼稚園教育の充実	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>(1)健康な心と体の育成</p> <p>① 子どもの発達や興味を踏まえた園外保育や集団遊びを計画的に取り入れ、体を動かすことが好きな子どもを育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節や発達に即した集団遊びや園外保育の年間計画をたてて、定期的に行なう。 ・行事での親子登園や月末歩いて帰ろうの日に徒歩通園を呼びかけたり、日課表に自然と関わる時間を組み込み、体力づくりに取り組んでいる園がある。 <p>② 遊びが発展・連続するようにクラス目標や個人目標を決めるなどの環境を工夫し、やり遂げる力の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年少・年中・年長と3年間使う「頑張りカード」で、遊びについて目標を設定し挑戦させる。 ・目標を達成した時にはシール、メダルなどをもらうことで、喜びや意欲を持続しながら取り組める環境を整えている。 <p>③ 幼稚園生活の中で教員が手本となり、子どもの自立心を育て、生活に必要な習慣や態度を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「早寝早起き朝ごはん」運動を日々の保育や行事の中に取り上げ、意識の向上を図る。 ・当番活動は具体的に仕方を指導し、責任をもたせながら体験させると同時に、片付けやすい環境づくりを工夫する。 	<p>○ 園外保育に出かけることが地域の自然に目を向けるきっかけになった。</p> <p>○ 遊びの中で個々に目標をもたせることで見通しがもて、頑張る気持ちや我慢する心などが育ってきている。</p> <p>● 歩くことを基本に積極的に園外保育に出かけ、地域環境を活かした体力づくりに取り組む。</p> <p>● 毎日積み重ねることが大事なので、幼児が喜んで取り組める活動を考えていきたい。</p> <p>● 通学路や地域文化・自然を生かした園外保育マップを作成する。</p> <p>○ 友達と考えを出し合ったり、自分の目標を決めたりして取り組み、頑張る力の育成につながった。</p> <p>○ 園児一人ひとりの伸びが見られ、その後の活動の自信につながっている。</p> <p>● より効果的なカードの使い方や苦手意識をもった幼児への援助の工夫をしていく。</p> <p>● 幼児が個々に目標をもち、挑戦意欲を高めていける環境を年齢に応じて工夫する。</p> <p>○ 生活習慣を意識して指導することで、職員がその大切さを実感している。</p> <p>○ 食事は、教師と一緒においしそうに食べることで、自分から嫌いなものも食べようとする幼児が増えてきた。</p> <p>○ 日々の繰り返して、幼児が気づき、自分で考え行動できるようになってきている。</p> <p>● 食事指導は幼稚園では給食のみなので、家庭につなげていく啓発が必要である。</p> <p>● 当番活動は、保育者が確認し子どもに返していくことを継続し、習慣づくようにする。</p> <p>● 生活習慣は、個々の状態に応じて繰り返し指導していきたい。</p>	C
担当課	学校教育課	
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p> <p style="text-align: right;">E・・・中止、廃止</p>	

項目	② 幼稚園教育の充実	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>(2)豊かな心の育成</p> <p>① 互いが気持ちよく生活していくために、我慢したり約束を守ったりする力を身につけるための遊びの充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの当番活動、ルールある集団遊びを計画的に取り入れる。 ・集会やトラブルを大事な指導の場として取り上げ、順番や約束を守ることの必要性や大切さを知らせている。 <p>② 地域の様々な行事に参加するなどの直接体験を重ねていくことにより、自分が育った地域に対する愛着心を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区文化祭、地区体育祭、盆踊り大会等地域の行事に作品展示や芸能発表等で参加する。 ・地域のお年寄りと交流したり、地域の人と一緒に野菜や果物の収穫をしたりする。 	<p>○ 当番活動の中で自分の役割を知り、協力しながら行うことができた。</p> <p>○ 失敗、トラブル体験を通してルールの大切さや我慢することを学ぶことができた。</p> <p>● 遊びの中で幼児同士が関わり、お互いの気持ちに気づく場を意図的につくる。</p> <p>● 幼児が自己表出したり相手の気持ちに気付いたりできる遊びや支援の工夫をしていく。</p> <p>○ 作品や演技を見せることで、幼稚園の取り組みを理解してもらえたり、園児は褒めてもらうことで自信につながったりしている。</p> <p>○ 地域の方と一緒に遊んだり教えてもらったりすることで、親しみを持つようになっている。</p> <p>● 地域行事への参加については、その内容を把握し参加の必要性を検討する。</p> <p>● 地域の主な行事は休日が多く、園としての参加はできにくいいため、家庭への啓発に取り組みたい。</p>	C
<p>(3)人とかがわる方の育成</p> <p>① 人とかがわることの基になる「あいさつ」や「返事」を習慣づける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢に適した目標をもって、あいさつ運動を実施する。呼ばれたら、「はい」と返事をする。 ・教師の方から積極的にあいさつをし、幼児に指導するとともに保護者にも伝えてきた。 <p>② 友だちと一緒に過ごす楽しさや充実感を味わう中で、相手の思いに気づいたり我慢したりする気持ちを育てるために、集団活動の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同年齢や異年齢での集団遊びの中で、思いを出す場や相手の思いに気づく場を意図的につくっている。 ・聴く力を身につけるために、年間計画の中にわらべ歌遊びを位置づけている園がある。 	<p>○ 学級ごとに目標をもって取り組むことで、あいさつの意識向上が図れた。</p> <p>○ 職員に意識ができたため、幼児も自分からあいさつをしようとする気持ちが育ってきた。</p> <p>○ 幼児を通して保護者にもあいさつ運動の輪が広がりつつある。</p> <p>● 保護者はあいさつの大切さを感じているが、返事については関心が薄いので啓発していく。</p> <p>● 場に応じたあいさつや返事ができるように継続した指導を続けていく。</p> <p>○ 葛藤や友達の様子を見て考えることを経験し、相手の思いに気づき我慢したり、ルールを守ったりすることができるようになっている。</p> <p>○ 幼児に落ち着きが生まれ、子どもから子どもに遊びや生活が広がるようになった。</p> <p>● 同年齢間では、まだ友だちの意見を受け入れられない幼児がいる。</p> <p>● 「朝のひととき」や「帰りのひととき」の時間に子どもたちとの話し合いを大切にする。</p> <p>● 幼児一人ひとりの実態を把握し、課題を明確にし、指導にあたる必要がある。</p>	C
担当課	学校教育課	
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p> <p>E・・・中止、廃止</p>	

項目	② 幼稚園教育の充実	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>(3)人とかかわる力の育成</p> <p>③ 小中高生・地域の人など、幅広い人と交流の機会をもち、いろいろな人とかかわる経験ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生職場体験での交流や地域のお年寄りと交流する。 ・小学生や保育所、他園の園児との交流保育を計画的に実施し、様々な人とのふれあいを経験させる。 	<p>○ 中学生との交流では、思う存分甘えたり遊んでもらったりして満足感を味わうことができた。</p> <p>○ なじみの少ない友達との交流では、自制心が働いたり、社会性の育ちが見られたりしている。</p> <p>○ 地域の人との交流では、地域のお年寄りが喜んでくれることに子どもたちも喜びを感じ、自信をもってきている。</p> <p>● 交流の相手、内容、回数等の検討が必要である。</p> <p>● 今後もいろいろな人との交流ができるよう計画的に取り組んでいく。</p>	C
<p>(4)創造する力の育成</p> <p>① 砂や粘土、自然物など可塑性があり、子どもがイメージをもって遊べる素材に出会わせることで、考えたり工夫したりする力を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂・粘土・廃材など身近なものがいつでも使えるように環境の見直しをする。 ・継続して遊べるように場と時間の確保をする。 <p>② 園外保育などで自然体験や社会体験を多く取り入れ、物事に自らかかわっていきこうとする意欲や探究心等が高まるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験や社会体験を年間計画に位置づけ、日課表の中にも自然と関わる時間を組み保育を行っている。 ・園の畑や自分の植木鉢で野菜を育て、親子で試食したりする。 	<p>○ 砂が苦手な幼児も友達の模倣をすることで、その遊びに興味を持つようになった。</p> <p>○ 試行錯誤しながら根気よく繰り返し取り組むことで、発想や創造力が豊かになってきた。</p> <p>● じっくりと考えたり工夫しながら継続して遊んだりする時間を確保する。</p> <p>● 考えたり工夫できる素材の情報を収集し、幼児の遊びに応じて環境を提供できるようにする。</p> <p>○ 自然の中での遊びで五感が養われ、遊びが意欲的になったり探究心が高まったりした。</p> <p>○ さまざまな体験活動が家庭にも広がり、園の教育に理解が深まった。</p> <p>● 年齢や時期などを考慮し、自然との関わりを増やしたり継続して体験できるようにしたい。</p> <p>● 経験した活動を年齢別に見直し、3年間を見通した計画を作成する。</p>	C
<p>(5)個に応じた教育の推進</p> <p>① 子ども一人一人の行動と内面を理解するために個人記録を書き、発達段階に必要な経験が得られるように教育内容を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週日案や個人記録を基に事例を書くことで、幼児の実態を捉え環境の構成や援助を工夫する。 ・特別な支援を要する幼児に対しては、日々の記録をもとに個々のねらいをもって関わっていく。 <p>② 職員全員で子ども一人一人の指導にあたるために、常に情報を交換し、チーム保育などの指導体制の工夫に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢交流をし他のクラスの幼児も見ることがある。 ・保育終了後に情報交換を行ったり、気づいたことを随時報告したりする。 ・園内研修や職員会の機会を活用して話し合う時間をもつ。 	<p>○ 個人記録を書き分析することで、その子に合った援助や環境を工夫した。</p> <p>○ 特別な支援が必要な幼児については、記録を基に職員間で話し合う場をもち、共通理解ができている。</p> <p>● 個人記録の記入方法や分析について、より工夫していく。</p> <p>● 今後も継続していくことで、それを保育の中で生かしていく。</p> <p>○ 全職員が、一人一人の姿を捉えようと努力するようになった。</p> <p>○ 情報交換をすることで職員間の共通理解ができ、子どもにも丁寧な指導ができつつある。</p> <p>● 異年齢でのふれあい活動は、学級の中とは違った個の育ちが見えるので継続していく。</p> <p>● 気軽に情報交換ができる雰囲気作りが心がる。</p>	C
担当課	学校教育課	
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p> <p>E・・・中止、廃止</p>	

項目	③ 子育て支援の充実		
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み		評価
<p>(1)子育てのための環境づくり</p> <p>① おたより(園・組)・送迎時の話し合い等を通して、基本的生活習慣や社会的規範を身につけさせる場である家庭の役割を啓発していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てだよりやクラス座談会などで、基本的生活習慣の大切さや道徳について啓発した。 ・送迎時に保護者に声をかけるようにし、些細なことでも相談しやすい雰囲気を作る。 <p>② 保護者が子どもとかかわる楽しさや子育ての方法を学べるように、子育て講演会や親子体操などの親子のふれあい活動の機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育参観でなく親子で遊ぶ保育参加とし、ふれあい遊びを行なっている。 ・園だよりに子育て情報コーナーを設ける。 ・保護者ボランティアによる絵本の読み聞かせや、1日保育者体験等をしている園がある。 <p>③ 子育てに関する相談ができる場や保護者間交流の場を設け、未就学児の保護者に対して、子育て支援の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園の行事に未就園児の親子を招待し、幼稚園の生活を体験する機会をもつ。 ・降園後に園庭を開放し、親子で遊んだり保護者間の交流の場にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつや早寝・早起きなど、基本的生活習慣を身に付ける大切さを知らせることができた。 ○ クラス懇談会が情報交換の場となり、生活習慣の大切さに気づいて見直そうとする保護者が増えた。 ● 送迎時に会うことが少ない保護者や、言いたいことが言えない保護者がいないか気をつけていく。 ● 園からの啓発がどの程度家庭に届いているのかの実態把握が難しい。 ○ 積極的に多くの保護者が参加し、園での子どもの様子がよく分かり良かったという意見が多い。 ○ 保護者等のアンケートを参考に内容の検討をすることで、充実へとつなげている。 ○ 講演会やふれあい遊びを通して、子育ての楽しさを感じるようになってきている。 ● 応答的な家庭連携を工夫する。 ● 仕事の都合で参加できない保護者に対しての参加の仕方について考えていく。 ○ 幼稚園生活を見ることで、未就園児の保護者が就園させることに安心感をもってくれる。 ○ 親子のかかわりや悩みなど、保護者間での情報交換の場となっている。 ● 行事と合わせる形を取り未就園児を招待しているが、回数や内容等を検討していく。 ● 預かり保育希望者が増加するため、保護者間の交流がもちにくくなっているため方法を工夫する。 	C	
担当課	学校教育課		
評価欄	A・・・十分な成果を得た B・・・ほぼ成果を得た C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要 D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要 E・・・中止、廃止		

項目	④ 子どもの成長を支える連携	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>(1)家庭や地域社会との連携</p> <p>① 保育参加や総会等を通して、保護者に幼稚園の取組等を積極的に話し、就学前の教育の大切さを知らせ、理解と協力を得るようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めの保護者総会で園の方針をわかりやすく説明する。 ・保育参加や子育て講演会などを通して、就学前の教育の大切さを発信し、理解と協力を得る。 <p>② 地域の人の思いを聞いたり、幼稚園の取組を説明したりして、子育て支援にどう取り組んでいくかを話し合い、より良い支援活動を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園の行事に地域の人の力を活用し、園だけではできない親子の遊びを取り入れる。 ・公民館や社協の会合に参加し、園の取組みを説明したり、意見交換したりする。 	<p>○ 保護者座談会やアンケートで、保護者が就学前教育の大切さに気づいている様子が見られた。</p> <p>○ 子育ての講演を聴くことで、家庭でのかわりを反省したり今後の参考にしたりすることができた。</p> <p>● 保護者が参考となるような講演内容を考えていく。</p> <p>● 少人数で説明する方が理解してもらえるので、今後もそのようにしていく。</p> <p>○ 子どもへの接し方が分からない保護者も親子で触れ合う経験をし、少しずつ子ども理解につながっている。</p> <p>○ 幼稚園開放により地域の団体と交流ができ、幼稚園教育への理解と協力を得ることができた。</p> <p>● 地域の方が幼稚園に来やすい雰囲気作りや、子どもがふれあう機会を増やす。</p> <p>● 保護者からの思いは集約しやすいが、地域の方から子育て支援について意見を聞くのは難しく、反映もしにくい。</p>	C
<p>(2)小学校との連携</p> <p>① 就学前教育は、幼稚園と保育所がともに進めることや、小学校の生活や学習につながることから、幼・保・小の子どもの交流や職員の合同研修をもち、互いの活動内容や指導方法などの共通理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異校種間交流の中で、お互いの保育(授業)を参観した後、保幼小の職員が合同研修を行っている園がある。 ・保幼から小学校へのつながりを意識し、5歳児と1年生、5歳児と5年生とが交流している園が多い。 	<p>○ 幼児児童の交流、職員間の交流を通して互いに親しみをもち、些細な情報も交換できるようになりつつある。</p> <p>○ 異校種間交流を通してお互いの教育・保育を知る機会となっている。</p> <p>● 職員の合同研修の機会をつくるように、小学校に働きかけていく。</p> <p>● 保幼小が研修できる時間帯が違うため、時間の確保と連携方法の工夫が必要である。</p>	C
担当課	学校教育課	
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p> <p style="text-align: right;">E・・・中止、廃止</p>	

項目	④ 子どもの成長を支える連携	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>(3)子育て関係機関との連携</p> <p>① 子育て関係機関のパンフレット等を配布し、その機能や役割を保護者に知らせることで、気軽に利用できるよう支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援児に関しては、“かけはし”の活用を積極的に知らせた。 ・ あみあみ通信やファミリーサポートの情報を掲示板に貼ったり、配布している。 <p>② 諸問題の予防と早期発見、またその対応のために、地域の関係機関・施設等とのネットワークの強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町内校長・園長・所長会を定期的に行い、校・園・所の年間計画や情報交換をしているところがある。 ・ 個に応じた支援ができるように、関係機関等と連携訪問や巡回相談を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 継続して支援をする「かけはし」について関心をもった保護者もいる。 ○ ファミリーサポート機関があることを知り、緊急時の対応に不安が少ない。 ● 特別支援については、理解を得られる保護者が少ないので、気軽に話が切り出せる信頼関係を作っておくことが大切である。 ● 幼稚園が専門機関について知らないことが多いので、情報を収集することが必要である。 ○ 専門的な立場からの助言・指導があり、保護者支援にも活かすことができた。 ○ 気になる幼児には巡回相談で指導を受け、その子への指導や関わり方がよく分かり、職員の研修の場となっている。 ● 家庭・地域社会・園・学校が連携し、それぞれの役割を明確にしながら問題解決のため情報交換を密にしていく。 ● 関係機関との連携についての知識を得て、適切な相談や対応ができるように、ネットワークづくりが必要である。 	C
担当課	学校教育課	
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p> <p style="text-align: right;">E・・・中止、廃止</p>	

② 小学校・中学校の方針

基本方針

「三豊市の誇り」と「生きる力」を身につける教育の推進

項目	① 信頼される学校		評価
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果	●課題と今後の取組み	
<p>(1) 信頼される教師の育成</p> <p>① 「進んで子どもとふれあう」ことの徹底を図るために、個に応じた言葉かけをしたり、休み時間等に児童生徒と一緒に遊んだり、積極的に話を聞いたりして、児童生徒理解に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個に応じた言葉かけを工夫したり、係わる回数を増やしたりした。 ・ 職員会議や終会時などを利用した児童生徒の情報交換及び共通理解を図った。 <p>② 「分かる授業を行う」ことの徹底を図るために、板書や発問等を工夫し、児童生徒が意欲的に授業に参加できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新指導要領移行を含めた校内研修及び研究授業の充実に努める。 ・ 各種研修会へ積極的に参加する。 ・ 週案等の作成による計画的な教育実践を行う。 <p>③ 学校評価等で明らかになった学校課題を解決するために、学校として全教職員で計画的・組織的に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導部会における学校課題の具体化に取り組む。 ・ 数値化できる目標を設定する。 ・ 国、県学習状況調査を分析し改善案を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学校が楽しい」「自分が好き」と答える児童が増えた。 ○ 問題行動の未然防止に役だった。 ○ 生徒との人間関係づくりができた。 ○ 別室登校児童生徒に対して、組織として関わる事ができた。 <p>● 教員の精神的疲労の緩和に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教師が意識して授業改善をしていく気風が生まれ、板書構成や内容がよくなった。(教師の専門性の向上) ○ 全国や香川県の学力調査で好成績を収めた。 <p>● 継続的な取組や工夫が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 課題をもった積極的な取組ができ、改善策を工夫できた。(PDCAサイクルの意識化が進んだ) ○ 協働意識が高まり体制が整備された。 <p>● 今後の課題を明確化する。</p>		B
<p>(2) 開かれた学校づくり</p> <p>① 具体的かつ明確な目標を設定することで、客観性・透明性を高めた自己評価に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価項目の絞り込み、評価内容や評価基準を確認する。 ・ 定期的に評価結果を総括し、PDCAサイクルで改善を図る。 <p>② 学校の改善・活性化につながる自己評価や結果公表を行うことで、保護者や地域住民等の期待と信頼に応える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価・学校関係者評価等の実施と評価結果の公表を行う。 ・ ホームページを開設する。 (全学校ではない) <p>③ 保護者や地域住民等の学校運営への理解と協力を進めるために、学校関係者評価や学校評議員等の活用を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評議員会を開催する。 ・ 学校関係者評価を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域、保護者の理解と協力が得られた。 <p>● より正確なデータを取る工夫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員、保護者、学校評議員、学校関係者評価委員で効果や課題を共有できた。 <p>● 学校評価方法の見直しと評価結果を生かした改善が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 外部意見による新たな課題発見と連携の強化が図れた。 <p>● 学校関係者評価の評価方法の改善が必要である。</p>		B
担当課	学校教育課		
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p> <p>E・・・中止、廃止</p>		

項目	① 信頼される学校		
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み		評価
<p>(3)安全・安心な学校づくり</p> <p>① 事故等を防止するために、「学校安全計画」を作成するとともに、施設設備の安全点検の徹底と日常指導や避難訓練・防災教育を計画的・継続的に行う。 ・継続的な交通安全指導・通学指導を実施する。 ・火災避難訓練・地震避難訓練・不審者避難訓練等を実施する。 ・毎月の安全点検を実施する。</p> <p>② 危機管理マニュアル、安全マップ、校内安全体制の整備など、事件・事故災害に対する安全管理体制づくりを進める。 ・危機管理マニュアルの再点検とマニュアルを生かした避難訓練を実施する。 ・インフルエンザへの対応マニュアルを作成する。</p> <p>③ スクールガードリーダー、地域安全ボランティア、三豊市安全パトロール隊など、関係機関との連携を図り、迅速かつ適切な情報提供や対応を行う。 ・PTA・職員・地域ボランティアによる登下校の見守り及び指導を行う。 ・育成センターからの情報の周知及び対応を行う。 ・生徒指導主事等による定期的な小中連携を行う。</p>	<p>○ 計画的な指導の実施ができた。 ○ 大きな事故等が全くなかった。</p> <p>● マンネリ化しない工夫と改善も必要である。</p> <p>○ 職員の危機管理意識の高揚がみられた。 ○ インフルエンザへの適切な対応ができた。</p> <p>● 実働性あるマニュアルへの見直しが必要である。</p> <p>○ 連携が強化され、児童の情報が集約されるようになった。 ○ 専門家(元警察官)の話や実地指導により子ども、教師ともに成果があった。 ○ 声かけ事案は、ほとんどなかった。</p> <p>● 子ども見守り隊や安全パトロール隊との連携をより密にする。</p>	B	
<p>(4)特色ある学校</p> <p>① 地域の施設や人材を積極的に活用したりするなど、創意工夫ある教育課程を編成する。 ・ALTを生かした英語活動を推進する。 ・三世代ふれあい活動や地域との連携等、地域人材や施設を生かした総合的な学習、特別活動、選択教科等を実践する。</p>	<p>○ 指導者やお年寄りへの尊敬の念の高揚がみられた。 ○ 地域の人の願いや思いを知ることができた。 ● 地域人材バンクのさらなる整備と活用が必要である。</p>	B	
担当課	学校教育課		
評価欄	A・・・十分な成果を得た B・・・ほぼ成果を得た C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要 D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要 E・・・中止、廃止		

項目	② 確かな学力の向上	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>(1)基礎・基本を定着させる教科学習</p> <p>① 少人数授業等による個に応じた、きめ細かな指導をおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習(学習形態の工夫)を取り入れる。 ・個から個への教え合い・学び合いを行う。 ・個に応じた教具、ワークシートプリント類を準備する。 <p>② 繰り返し指導や補充学習により、一人一人に基礎学力を定着させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後学習を計画的に実施する。 ・各種学習状況調査等を分析し指導の重点化を図る。 ・朝のドリルや読書タイムを設定する。 ・毎月の定着確認テストを実施する。 ・長期休業中の個別補充学習を実施する。 <p>③ よく分かる授業のために、板書を工夫し、教材・教具の具体操作や動作化など実感を伴う授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚に訴える板書の工夫及び構造化を行う。 ・学校課題解決に向けた授業改善を行う。 ・操作活動を取り入れた授業展開を開発する。 	<p>○ 遅れて進む児童・生徒への対応が強化された。</p> <p>○ 各種状況調査での良好な成果を収めた。</p> <p>○ 学びあい学習等による基礎・基本の定着が図れた。</p> <p>● 学力の2極化へのさらなる対応が必要である。</p> <p>○ やればできることを、個々が自覚できるようになった。</p> <p>○ 各種状況調査での良好な成果が得られた。</p> <p>● 個々の状況に合わせた支援の工夫が必要である。</p> <p>● 学習意欲のさらなる向上へ向けての工夫が必要である。</p> <p>● 思考力・表現力の育成が課題である。</p> <p>○ 板書が構造化され、単元や1単位時間を振り返りながら授業に参加できる児童・生徒の増加が見られた。</p> <p>○ 活用を意識した授業が推進された。</p> <p>○ 教員が互いに磨きあう場があることにより授業の質が向上した。</p> <p>● わかる授業構成にするために、さらなる授業改善を行う。</p>	B
<p>(2)学ぶ基礎を培う学習習慣づくり</p> <p>① 学習課題を明確にし、一人一人が目当てをもって、学べる授業をすすめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題意識を重視した問題解決学習を推進する。 ・児童生徒と作る学習課題に取り組む。 ・考えの道筋が分かるノート指導を行う。 <p>② よりよい学び方が定着するように、「話し方」「聞き方」を中心に、学年のつながりを考えた、学校独自の学習規律づくりを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話し方」「聞き方」「書き方」「持ち物の準備」等のめあてを作成する。 ・学年のつながりを考えた規律づくりに取り組む。 <p>③ 家庭との連携をとりながら、家庭学習のしおり等を活用して、家庭学習の習慣化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA学級懇談会での話し合いを行う。 ・「家庭学習の手引き」を配布する。 ・自主勉強ノートを活用する。 	<p>○ 三豊市版の漢字・計算ドリルを活用できた。</p> <p>○ 課題意識が明確になり、集中して学習に取り組めた。</p> <p>○ 具体的な教材を準備して授業実践が行われた。</p> <p>● どの子も積極的に取り組めるノート指導を充実させる必要がある。</p> <p>○ 教師が意識して声をかけることで、学習規律が定着した。</p> <p>○ 発達段階に応じ、9年間を見据えた計画ができつつある。</p> <p>● マンネリ化しない工夫と改善にさらに取り組む。</p> <p>○ 家庭学習が習慣化されてきている。</p> <p>○ 達成度の点検と評価がおこなわれている。</p> <p>● 「家庭学習の手引き」のさらなる活用や保護者啓発に努める。</p>	B
担当課	学校教育課	
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p> <p style="text-align: right;">E・・・中止、廃止</p>	

項目	② 確かな学力の向上	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>(3) 言語活動の充実</p> <p>① 全教育活動を通して言語に対する関心や理解を深めるとともに、話し合い活動を充実させるように継続的指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループ、全体など形態を変えて友だち同士で説明し合い、集団思考を充実させる。 ・話型を教室に掲示し、継続指導する。 ・書く活動を充実させる。 <p>② 読書の時間を十分に確保し、読書意欲を高め、読書活動の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアや教職員、上級生による読み聞かせを行う。 ・毎月の「23(にさん)が60(ろくまる)運動」を推進する。 	<p>○ 児童の意識が高まった。</p> <p>○ 話型やきまりを使った、話し合い活動が充実してきた。</p> <p>○ 自分の意見を伝える工夫ができるようになった。</p> <p>● 話型を自分のものにし、自分のことばでの話し合い活動を充実させる必要がある。</p> <p>● 自ら進んで問題解決していく学習形態の充実が大切である。</p> <p>○ 読書を好む児童が増加した。</p> <p>○ 図書室利用者が増加した。</p> <p>○ 「静」の時間が確保されている。</p> <p>● 今まで以上に家庭学習との連携が必要である。</p> <p>● 保護者への啓発も大切にしていける必要がある。</p>	C
<p>(4) 個を大切にする特別支援教育</p> <p>① 一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばすために、障害の種類や程度に応じた教育課程編成を行うとともに、学習環境の整備や指導方法の改善を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市費特別支援教育支援員を活用した、きめ細かな指導を行う。 ・障害の種類や程度に応じた指導法を工夫する。 ・学習環境の整備を進める。 <p>② 障害のある児童生徒への理解と認識を深めるために、校内研修の充実を図ったり、特別支援コーディネーターを中心に学校全体の支援体制づくりを進めたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級児童に関する職員間での情報交流会を行う。 ・SCやSSW等の専門家から情報提供を受ける。 <p>③ 見通しをもった就学指導や支援ができるように、継続して保護者に対する相談・支援を行ったり、就学指導委員会等の関係機関との連携を強化したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職と保護者との面談を実施する。 ・特別支援学校教員による連携訪問、通級指導を行う。 ・病院等の専門機関等への相談等を実施する。 ・就学指導委員会等の関係機関との連携を強化する。 	<p>○ 児童の考え方や指導方法について細かく聞くことができ、教師が気持ちに余裕を持って対応することができてきた。</p> <p>● 軽度発達障害のある児童に対する教育を充実させる。</p> <p>○ 複数でかかわっても、指導に一貫性を持つことができてきた。</p> <p>● 個々の教師力の向上が必要である。</p> <p>○ スクールカウンセラー訪問日に合わせて保護者・担任・養護教諭などとの相談活動を実施することができた。</p> <p>● 教育課程の編成と指導体制の確立が急がれる。</p> <p>● 保護者への働きかけを継続させる。</p>	B
担当課	学校教育課	
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p> <p style="text-align: right;">E・・・中止、廃止</p>	

項目	③ 豊かな心の育成	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>(1)自己指導力を培う生徒指導</p> <p>① 児童・生徒とのふれあいを重視することで、いじめ・不登校・児童虐待等の早期発見に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめゼロ月間での取組みを充実する。 ・一人一人のよさを認め、紹介する活動を行う。 ・職員で当番を決めて、校内巡視する。 <p>② 問題行動や不登校に対して、個に応じたきめ細かな支援を迅速かつ適切に行うなど、根絶に向けた全教職員による指導体制を整える。(校内支援チームの設置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談日や相談窓口を設置する。 ・学校カウンセラーや養護教諭による定期的な相談を実施する。 ・教職員間での定期的な情報交換会の実施による全職員での対応を行う。 <p>③ 家族との会話や読書の機会を増やすために、家庭と連携し「ノーテレビデー」や「23が60運動」の啓発と充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりや授業参観、集会等を活用した呼びかけを行う。 ・がんばっている子の紹介などで意欲化を図る。 	<p>○ 遊びや会話を通して得た情報を職員間で共有することにより、学級では知り得ない情報を得ることができた。</p> <p>● 活動内容のさらなる開発も必要である。</p> <p>○ 気になる児童に大勢の職員が何気ない声かけを行うことにより、心の不安を軽減することができた。</p> <p>● マンネリ化に対応するための連携の工夫も必要である。</p> <p>○ 家族との会話の時間が増加した。</p> <p>● 家庭への呼びかけを継続する。</p>	B
<p>(2)人権尊重社会の実現に向けた人権教育</p> <p>① 人権についての正しい理解や認識、人権を尊重する意欲・態度を育成するために、人権教育指導計画を教育計画に位置づけ、授業実践を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権なかよし集会、人権劇、なかよしアンケート、なかよし標語等を実践する。 ・三豊市の教材集を組み込んだ年間計画の作成と実践を行う。 <p>② 三豊市人権教育教材集を活用した授業実践や指導方法の工夫を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市人権教材集を計画的に実践する。 ・実践報告会を実施する。 <p>③ 保・幼・小・中学校間での情報交換や共通認識を確立するために、学力・進路支援担当及び人権・同和教育主任による研修会や関係団体との交流研修会を積極的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権劇や人権授業等の公開を行う。 ・職員研修、交流会、保護者会、研修会への参加、模擬授業の実施、学習会の実施、地区文化祭への参加等を行う。 	<p>○ 実践意欲が高まった。</p> <p>● 資料の積み重ね、学校の財産としての保管及び活用をしていく必要がある。</p> <p>○ 保護者に参観してもらうことで、保護者啓発にもなった。</p> <p>○ 学年団等における事前研修で、各資料の指導に深まりを持たせることができた。</p> <p>● 昨年度からの経緯も踏まえ、次年度の実践教材を選定する。</p> <p>○ 交流を重ねることにより、関係団体、関係機関との人間関係が深まり、学校教育に対する理解と協力が得られた。</p> <p>● 保育所との連携及び進学・入学時の連携を強化していく必要がある。</p>	B
担当課	学校教育課	
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p> <p style="text-align: right;">E・・・中止、廃止</p>	

項目	③ 豊かな心の育成		
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み		評価
<p>(3)豊かな心を培う道徳教育</p> <p>① 副読本や「こころのノート」を十分に活用し、さらに、効果的な指導法について工夫する。 ・道徳の時間や学校行事等を活用した道徳教育を充実する。 ・副読本や「こころのノート」の活用を位置づけた年間指導計画の作成と実践を行う。</p> <p>② 「自己の生き方を見つめる活動」を充実させることで、規範意識や自尊感情を向上させる。 ・障害者や助産師による「命の教育」の教室を開催する。 ・職場体験学習などの体験的な活動を取り入れたキャリア教育を推進する。</p> <p>③ 地域の人材の活用や体験的な活動など、多様な取組みを工夫する。 ・地域清掃や老人ホーム訪問等を実施する。 ・野菜や米、張子の虎作りなど、地域の人材や伝統文化を生かした取組みを継続して実施する。</p> <p>④ 道徳の授業公開や「道徳の日」を設定するなど、学校と家庭との連携を大切にする。 ・保護者への人権劇、道徳(人権)授業参観等を公開する。 ・道徳の日を設定する。</p> <p>⑤ 地域の自然や文化・歴史などを学ぶことを通して、「郷土を愛する心」を育てるふるさと教育を推進する。 ・地域の老人ホーム、海岸、産業、人材等を生かした、総合的な学習の計画と実践を行う。 ・地域主催のボランティア活動に参加する。</p>	<p>○ 自尊感情の高まりがみられた。 ● 個人差への対応が必要である。 ● 「こころのノート」の日常的な活用を工夫しなければならない。 ● よりよい生き方の基本となる道徳の大切さを共通理解し、一層力充実させる。</p> <p>○ 児童だけでなく保護者への啓発ができた。 ● 学習時間を確保する必要がある。</p> <p>○ 価値ある体験活動となった。 ● 活動の時間を確保する。 ● 次年度への引継ぎをきちんとする。</p> <p>○ 児童だけでなく保護者へも啓発できた。 ● 学校と家庭が双方向になるような連携のあり方を探る必要がある。 ● 道徳の日の具現化に取り組む。</p> <p>○ 計画的に実践し、地域に根ざしてきている。 ● 資料の整備が必要である。 ● 地域とのつながりを維持するための取組みを工夫する必要がある。</p>	C	
<p>(4)自主的・実践的な態度を培う特別活動</p> <p>① よりよい生活や人間関係を築くことができるよう、自発的、自治的な活動や豊かな体験活動を充実する。 ・児童会・生徒会活動を充実する。(各種集会活動、あいさつ・清掃活動、寄付金活動、リサイクル活動等) ・異年齢集団での活動を行う。 ・地域の文化祭に参加する。</p>	<p>○ 児童会活動が、学校の伝統になってきた。 ○ チームワーク、思いやりなどの心が育った。 ○ 児童会・生徒会の役員を中心として、児童生徒が意欲的に取り組む場面が増えた。 ● 今後も責任を持って最後までやり遂げさせ、達成感や成就感を味わわせるとともに、道徳的実践力も育てたい。</p>	B	
担当課	学校教育課		
評価欄	A・・・十分な成果を得た B・・・ほぼ成果を得た C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要 D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要 E・・・中止、廃止		

項目	③ 豊かな心の育成		
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み		評価
<p>(5) 将来の自分を考える進路指導・キャリア教育</p> <p>① 職場訪問や職場体験学習などの、体験的な活動を取り入れたキャリア教育の推進に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 老人ホームで福祉体験をする。 ・ 米作り等の農業体験をする。 ・ 遠足や生活科・総合的な学習の時間等での職場見学やインタビュー活動をする。 (小学校) ・ 地域の事業所の協力を得ての職場体験学習を実施する。(中学校) <p>② 児童生徒が自分の生き方を省察し、将来の自分の進路を自ら切り拓くことができるように、学校教育全体を通して支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育全体計画とキャリア学習プログラムの作成、実践を行う。 ・ 学力保障と進路保障の観点から教育相談活動を実施する。 <p>③ 児童生徒が将来の夢に向かって着実な歩み続けられるように、家庭で将来の夢などについて語り合う機会をもつよう協力を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年文集づくり、卒業文集づくりを通して、自分のめざす姿について考える機会を設置する。 ・ 学校だよりやPTA役員会、授業参観などの機会を活用して、保護者に協力依頼する。 	<p>○ 体験を通して、正しい職業観や生きがいとしての仕事について考える機会となった。</p> <p>● 体験を通してキャリア教育を推進していく。</p> <p>○ 発達段階に応じて、自分の将来の夢や希望について考える機会となった。</p> <p>● 6年間又は3年間を見通した、発達段階を考慮した系統的な学習を工夫する。</p> <p>○ 学校教育に対する保護者の理解度の向上がみられた。</p> <p>● 将来に向けて生きる力をつけるための取り組みの計画が必要である。</p> <p>● 関心を示さない保護者の意識改革をいかに行うかが課題である。</p>	C	
担当課	学校教育課		
評価欄	A・・・十分な成果を得た B・・・ほぼ成果を得た C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要 D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要 E・・・中止、廃止		

項目	④ 健やかな体の育成	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>(1)豊かなスポーツライフの基礎を形成する学校体育</p> <p>① 運動の楽しさや喜びを味わいながら自らの課題に気づかせたり、仲間との交流を通して解決したりさせながら、生涯にわたって運動に親しむ資質能力の基礎を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの分析による課題を明確化する。 ・正課体育の充実努力。 ・全校での体育活動を実施する。 ・水泳・陸上・サッカーなどの放課後特別練習を実施する。 <p>② 週時程や活動内容を工夫しながら、発達段階に応じた基礎的な体力づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画を立て、実態に即した運動を推進する。 ・朝や業間に体育的活動を組み込み、楽しみながら体力向上を図る。 <p>③ 児童生徒の能力等に応じて技能や記録の向上を目指したり、好ましい人間関係を育てたりするために、個性と自主性を尊重した運動部活動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動を推進する。 ・練習計画に生徒の創意工夫を取り入れ、意欲的に取り組ませる。 ・陸上・水泳特別指導を行う。 	<p>○ 個人のめあてが明確になり、その子なりに努力できた。</p> <p>● 個々のレベルアップを図るための方策も必要である。</p> <p>○ 各種調査で好成績が残せた。</p> <p>○ 全校生が仲良く助け合いながら活動できた。</p> <p>● 遅れがちな子どもへの支援のさらなる工夫が必要である。</p> <p>○ 対外的にも好成績を残した。</p> <p>○ 自己記録を更新した時の喜びを味わうことにより、次の活動への意欲が見られた。</p> <p>● 日ごろの練習に積極的に取り組み、さらに対外試合にも参加し、技能等の向上や競争意識の高揚を図る。</p>	B
<p>(2)規則正しい生活習慣の確立</p> <p>① 家庭との連携を図りながら、「早寝早起き朝ごはん」運動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に「生活リズムチェック」を実施、評価する。 ・地区懇談会での保護者啓発を行う。 <p>② 生活習慣病・喫煙・飲酒・薬物乱用・性・エイズなど、健康に関する現代的課題に対応した指導の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察と連携を図った薬物乱用教室・防犯教室を実施する。 ・血液検査による生活習慣病検査の実施と後指導を行う。(小学校) ・総合、学活、保健での授業実践を行う。 <p>③ 学校保健委員会や外部指導者による指導により、児童生徒の健康や安全に関する諸問題について、家庭や地域社会との連携の強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健委員会を開催する。 ・保健だより・給食だより等を通した保護者啓発を行う。 	<p>○ 子ども、保護者への意識付けになり、規則正しい生活リズムが身に付いたり、動機付けになったりした。</p> <p>● 家庭の協力を期待できない子どもへの対応が必要である。</p> <p>○ 個別指導により自覚して取り組めてきた。</p> <p>● 資料を整理し、いつでも活用できる体制作りが必要である。</p> <p>○ 良いアドバイスをいただけ、家庭でも実践につながった。</p> <p>● 学校保健委員会や学校医等の指導のもと、家庭との連携をさらに図る。</p>	B
担当課	学校教育課	
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p> <p style="text-align: right;">E・・・中止、廃止</p>	

項目	④ 健やかな体の育成		
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み		評価
<p>(3)望ましい食習慣を形成する学校給食</p> <p>① 給食の時間を中心に教科等と関連付けるなど、教育活動全体を通した「食育の年間指導計画」を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育の年間計画に添って全教育活動の中で食育を推進する。 ・全体計画、年間計画を持ち寄り、中学校区ごとに見直しを実施する。 <p>② 食物の生産や調理等の体験活動や学校栄養職員による専門性を生かした指導など、指導方法の工夫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養職員や養護教諭等とのTTによる、専門的な指導を取り入れた授業の工夫を行う。 ・親子給食や栄養指導教室を行う。 <p>③ 肥満・食物アレルギー・偏食など、食に関する個々の課題に応じた指導の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー調査を実施する。 ・血液検査による生活習慣病検査の実施と後指導を行う。 ・栄養職員や養護教諭による保護者啓発を行う。 <p>④ 郷土料理・地元産物の積極的活用や徹底した衛生管理など、魅力ある食事の工夫と安全性の確保を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・献立委員会で学校の要望を伝えるとともに、運搬時の温度管理と衛生チェックと厳密化する。 ・給食週間の取組を実施する。 <p>⑤ 食と健康の問題等について協議する学校保健委員会の開催や給食だよりの発行など、家庭や地域社会との連携の強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健委員会を開催する。 ・給食だよりで日本型食習慣を紹介し啓発する。 	<p>○ 具体的な資料を示したり専門的な内容を加えたりしながら、生徒の興味関心を高めることができた。</p> <p>● 全学年の取組みの情報交換を行い、さらに実態に合わせた計画に組み替え、実践につないでいく。</p> <p>○ 朝食を食べないで登校する生徒が減少してきた。</p> <p>● 保護者へのさらなる啓発が必要である。</p> <p>○ 長期休業前の保護者啓発の実施できた。</p> <p>● 偏食に関する指導を教科・学級活動等での指導でも工夫する。</p> <p>○ 栄養職員を中心に衛生管理面で工夫、改善が図れた。</p> <p>● 地域の行事食等について、さらに関心を高める手立てが必要である。</p> <p>○ 体験を通した啓発ができた。</p> <p>● 教科との関連や保護者啓発をさらに工夫が必要である。</p>	B	
担当課	学校教育課		
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p> <p style="text-align: right;">E・・・中止、廃止</p>		

項目	⑤ 社会の変化に対応する力	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>(1) 高度情報化に対応する情報教育</p> <p>① 個人情報や著作権の保護、有害情報対策等、情報モラルやマナーに関する指導の充実を図るとともに、家庭との連携を積極的に図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員会や校内研修で、情報管理に関する研修を行う。 ・総合的な学習の時間等での情報教育を実施する。 ・各学年、他教科等の関連させた教育計画を行う。 ・パンフレットの配布やネットマナー等の指導を行う。 <p>② 各教科等の目標を達成するために、三豊市学校ネットワークを中心としたコンピュータ機器等の効果的な活用を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディア活用のための研修を行う。 ・調べ学習や表現物の作成などにコンピュータを活用する。 ・集会における学習成果の発表等にも活用する。 ・学校ホームページを開設する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 携帯電話等の安全指導により、モラルや規範意識が高まった。 ● 情報モラル定着に向け、児童・生徒、保護者へのさらなる啓発が必要である。 ● 全校的なコンピュータ活用の推進が望まれる。 ○ 校内研修でメディアを使った授業について研修を行った結果、多くの教員がメディアを利用した授業を実践するようになってきた。 ● 全校的なコンピュータ活用のさらなる推進が望まれる。 ● 全職員でホームページの更新に取り組む。 	C
<p>(2) 科学技術の進歩に対応する理数教育</p> <p>① 「発見する喜び」や「創る楽しさ」が体験できるように、問題解決の学習や体験的活動を積極的に取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習を展開する。 ・一人1実験を推奨する。 ・理科支援員を活用する。 ・生活に生かす体験活動を充実する。 ・安全面に配慮した授業実践を行う。 <p>② 「香川高等専門学校詫間キャンパス」や「三豊市少年少女発明クラブ」等の地域関係団体との連携を図ったり、地域の人材や専門家を積極的に活用したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「香川高等専門学校詫間キャンパス」にロボット教室等の講師を依頼する。 ・四国電力の専門家によるエネルギー・環境教室を実施する。 ・「三豊市少年少女発明クラブ」等への参加を呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ メディアを効果的に使ったり、体験的な実験等を数多く取り入れることによって、学習意欲が高まった。 ○ 理科支援員の活用による効果的な実験観察ができた。 ● 教材研究をし、体験的活動や問題解決学習を継続していく必要がある。 ○ 科学の楽しさや面白さを味わうことにより、探求心が高まった。 ○ 発明クラブで受賞した児童がいる。 ● 子どもサイドに立った理科学習のあり方についての模索が必要である。 	C
担当課	学校教育課	
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p> <p style="text-align: right;">E・・・中止、廃止</p>	

項目	⑤ 社会の変化に対応する力	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>(3) 自然との共存に対応する環境教育</p> <p>① 環境教育については、地域、社会施設、関係機関等と連携を図りながら、学校教育全体を通して進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域・社会施設・関係機関等と連携を図りながら、学校教育全体を通して推進する。 ・児童会・生徒会活動での牛乳パックやアルミ缶を回収する。 <p>② 環境に対する豊かな感受性を育成するために、自然体験やボランティア活動を充実するとともに、活動内容を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の年間栽培計画の作成と実施を行う。 ・地域清掃等ボランティア活動を実施する。 ・校外学習で水資源巡りを行う。 	<p>○ リサイクルの意義や環境保護についての意識の高揚がみられた。</p> <p>● 関係機関の専門家による環境教室の継続が望まれる。</p> <p>○ 捨てればゴミになる物の再利用により、自然も人も幸せになることを学んだ。</p> <p>● ボランティア活動のさらなる充実が必要である。</p>	B
<p>(4) 国際化に対応する国際理解教育・外国語教育</p> <p>① 郷土や我が国の歴史、文化・伝統及び異文化に対する理解を深めるために、地域の実態を踏まえながら、多様な学習を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統文化を紹介する。 ・総合的な学習の時間と外国語活動の両面から、日本及び日本以外の国の文化について学習する。 <p>② 地域在住の外国人や豊富な経験を有する地域人材、国際交流員等を活用した教育活動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全小学校で外国語活動を実施する。 ・ALTや英語活動指導員を活用する。 <p>③ 英語のコミュニケーションに興味・関心を持たせ、意欲を高める小学校英語活動を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修にて外国語活動の研究授業の実施、および研究推進校による外国語活動の公開授業を実施する。 <p>④ 「聞くこと」「話すこと」の実践的コミュニケーション能力を育てるために、英語を用いた授業展開や外国語指導助手の有効活用、語彙・文構造の習熟を図る活動など、授業改善を一層進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修で英語活動について研修する。 ・先進校での公開授業参観する。 ・ALTや地域人材を生かした授業作りを工夫する。 	<p>○ ステージの飾り付けや来客の接待をすることで、地域の一員としての自覚の高まりがみられた。</p> <p>● 児童・生徒の興味を喚起する体験活動の開発</p> <p>○ 異国文化への知的好奇心をもつ児童・生徒の増加がみられた。</p> <p>● 交流の機会を増やす努力が必要である。</p> <p>○ 参加者からの高い評価をうけた。</p> <p>● 新教育課程の実施に向けた指導内容の改善が必要である。</p> <p>○ ALTの効果的な活用ができた。</p> <p>○ コミュニケーションをとることへの興味の高まりがみられた。</p> <p>● 教材教具を準備する時間の確保が必要である。</p> <p>● 授業研究・授業公開を行ったりすることで、さらなる教員の指導力向上や指導法を改善していく必要がある。</p>	C
担当課	学校教育課	
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p> <p style="text-align: right;">E・・・中止、廃止</p>	

③ 学校等施設耐震化の推進

基本方針	子どもたちが安全な学校施設で、安心して学ぶことができる教育施設等の整備
------	-------------------------------------

項目	①子どもたちが安全な学校施設で、安心して学ぶことができる教育施設等の整備
----	--------------------------------------

具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
--------------------	--------------------	----

<p>(1)学校等施設耐震化の推進</p> <p>耐震性を有しない園舎、校舎、体育館の耐震補強工事等の耐震化を優先的に実施し、子どもたちが安全な学校施設で安心して学ぶことができる教育施設等の整備をする。</p> <p>耐震化整備計画</p> <p>○ 平成21年度に小・中学校校舎、体育館の耐震診断を完了する。</p> <p>○ 平成24年度 小・中学校校舎、体育館の耐震化工事を完了予定。</p> <p>本年度において、耐震診断未実施分(小学校校舎1校、中学校校舎2校、小学校体育館5校、中学校体育館1校)をすべて終了し、次年度以降に向けての耐震補強実施設計を小学校校舎5校、幼稚園園舎2園について実施した。</p> <p>また耐震補強工事(小学校校舎2校、小学校体育館1校)及び改築工事(中学校体育館1校)を実施した。さらに小学校校舎2校、幼稚園園舎2園の耐震補強工事に着手した。</p>	<p>○ 本年度は、計画していた耐震診断、補強工事実施設計、補強工事が計画どおり実施され、補強工事を完了した建物は耐震化が図れた。また、国の補正予算に伴い、次年度発注予定分の補強工事も発注することができた。</p> <p>また、昨年度からの課題である耐震診断の結果を公表することができた。</p> <p>これにより平成21年度末における三豊市の学校施設耐震化率は、86%となった。香川県内の耐震化率は59.9%、全国平均の耐震化率は67%であり、香川県内、全国平均を上回っている。(香川県内、全国平均の数値は平成21年4月1日現在の数値)(三豊市の耐震化率の考え方は年度末までに工事を終了している施設(棟数)で算出している)</p> <p>● 三豊市の耐震化未実施施設の工事については、今後大きな財政負担を伴うことから、国の補助金の活用と本市の新総合計画との整合性を図りながら耐震化の手法(補強工事か改築工事か)や工事の優先順位を決定し、早期に耐震化を目指す必要がある。</p>	A
---	---	---

担当課	教育総務課
-----	-------

評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p> <p style="text-align: right;">E・・・中止、廃止</p>
-----	--

④ 生涯学習の方針

基本方針

人と地域がふれあい、人と文化を育てるまちづくり

項目	① 自ら学び、生きがい創造する生涯学習の推進		
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果	●課題と今後の取組み	評価
<p>(1) 学習機会の提供(地区公民館活動の充実)</p> <p>① 公民館活動は、知的、文化的、総合的な活動を通じて潤いと生きがいのある活動が求められており、そのニーズに応じて文化活動を中心とした生涯学習活動の場として、生きがいづくり活動、また、地域社会への技術や知識の還元の場として、地区公民館を拠点とした生涯学習の充実を図る。また、指導者等の情報の提供及び調査研究の充実に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区公民館において、高齢者・子ども・女性を対象とした講座、また、地域毎に特色のある活動を行った。 ・高齢者対象……111回 ・子ども対象……112回 ・女性対象……67回 <p>生涯学習人材バンク登録名簿を作成し、地区公民館等に配布した。</p> <p>② 地域の各種団体と連携した事業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財施設ガイドのボランティア養成講座、文化協会と連携した文化祭の開催等、各種団体と連携した事業を開催した。 <p>③ 分館活動については、地域の特色を生かした地域活動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分館長、公民館主事を中心として地域に根ざした活動を展開した。今年度の活動は町単位で平準化した事業費で開催した。 	<p>○ 各地区公民館において、定期的な講座の開催に加え、個々の館において、特色のある活動が行われた。単なる公民館講座でなく、地域に係わり、地域に還元する活動が見られるようになった。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座で身に着けた技能で施設を訪問した。(ボランティア活動) ・公民館を中心として、地域で防災に備えるため、講演会やフェスタを開催した。 ・子どもを対象として、もみすりから稲刈りまで一連の農作業を体験し、収穫作物で餅つき大会を開催した。 <p>● 市民が参加できるイベント等の開催を通して公民館活動の参加の比較的小さい世代に参加促進に努める共に、地域の指導者の人材発掘に努める。</p> <p>○ 公民館が各種団体と連携した行事を開催することにより、単なる講座を開催するだけでなく、地域の活性化に寄与できる組織となっている。また、文化講演会については開催を中止し、育成センターの講演会に協力することで同じような講演会の開催を控え、予算の削減に努めた。</p> <p>● 各種団体との連携については、地域毎に、団体の組織や協力関係が異なり、実施事業が一律でなく、今後も検討を要する。</p> <p>○ 分館活動は地区公民館よりもさらに小さなエリアで展開されており、地域住民の交流を通して地域の活性化に寄与している。</p> <p>● 分館により活動の内容や機会にバラつきがあるため、重点目標を掲げる等検討を行う。</p>		B
担当課	生涯学習課		
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p>		<p>E・・・中止、廃止</p>

項目	① 自ら学び、生きがいを創造する生涯学習の推進	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>(2)社会教育団体連絡協議会等社会教育団体への自立支援</p> <p>① 市の方針を外部団体に粘り強く説明し、理解・協力が得られるよう努める。 ・市内の3団体「市体育協会」、「市文化協会」、「市文化財保護協会」の役員に対し、自主・自立に向けて協力を依頼。「三豊市社会教育団体等連絡協議会」の設立を協議・検討する。</p> <p>② 団体主催事業の都度、自分たちが事業主体であることを認識・活動してもらえよう支援する。 ・団体主催事業を各団体が事業主体であることを理解し運営してもらえようように依頼した。</p> <p>③ 社会教育団体連絡協議会を組織し、事務局の統合化を通して、自主、自立を推進する。</p> <p>・(4/1)「三豊市社会教育団体等連絡協議会」の設立、事務局設置及び事務局長の配置をした。 ・(4/20)事務局職員3名の配置完了する。</p>	<p>○ 市内の3団体「市体育協会」、「市文化協会」、「市文化財保護協会」の自主・自立に向けて協力の承諾を取り付ける。</p> <p>● 参画する3団体以外の社会教育団体に、自主・自立に向けて協力依頼及び協議会への参加を依頼する。</p> <p>○ 団体主催事業を各団体が事業主体であることを理解し、全ての事業において自主運営で実施している。</p> <p>● 事務的な面もすべて各団体が行えるように指導する。</p> <p>○ 「三豊市社会教育団体等連絡協議会」の設立及び職員の配置完了。完全な自立までの支援として、連絡協議会との業務委託の契約を締結した。</p> <p>● 連絡協議会への財政的支援はある程度の期間行うが、協議会の組織を確立させて、次の段階として財政面も独自で運営できるように検討協議する。</p>	A
<p>(3)図書館利用の拡大</p> <p>① 市内7図書館(室)をネットワークでつなげ、蔵書検索及び予約申込等の機能を広く市民に周知するとともに、どこの図書館でも図書を借りることも、返却することもできる等有効活用を図る。 ・市内図書館のネットワーク化に伴い、蔵書検索及び予約申込等の機能を広く市民に周知するとともにその有効活用を図った。また、所蔵館以外に返却された図書等を所蔵館へ返却するため、今までは使送便を利用していたが、図書館独自の回送便業務を実施し利便性を図った。</p> <p>② 地域の生涯学習や文化活動の拠点として、図書館ボランティアによる「おはなし会」、「おたのしみ会」「ビデオの上映会」等読書に親しむ活動を積極的に行う。 ・市内7図書館(室)において、定期的にボランティア等によるおはなし会やビデオ上映会を実施した。また、市内各図書館で読書感想画展、図書交換会、雑誌無料提供、工作教育等特色ある行事を実施した。</p> <p>③ 市ホームページ及び市広報紙等を通して、市民への図書館情報を積極的に提供する。 ・市ホームページ及び市広報誌等を通して、市民への図書館情報を積極的に提供した。</p>	<p>○ 市内図書館のネットワーク化で蔵書検索及び予約申込等が可能なることを市民が知ることにより、図書館利用の拡大につながった。また、図書館独自の回送便業務を実施したことにより、送付冊数の制限解消や図書の回送時間が短縮されるなど利便性が向上した。</p> <p>● 市内図書館のネットワーク化について、今後は、さらにその利便性について周知に努め、図書館サービスの一層の向上に努める。また、図書館独自の回送便業務も継続して実施し、市民が利用しやすい図書館を目指す。</p> <p>○ おはなし会を楽しみに来館する親子が増え、絵本等の貸出しが増えたとともに読書意欲の喚起につながった。</p> <p>● 市ホームページや広報等を通して、図書館情報を積極的に提供する。また、読み聞かせの技術向上研修の実施や、市内各館との連携を強め図書館利用の拡大に努める。</p> <p>○ 市ホームページ及び市広報誌等を通して図書館情報を提供することにより、図書館利用の拡大につながった。</p> <p>● 今後も、市ホームページ及び市広報誌等を通して積極的に図書館情報を提供し、図書館利用の拡大を目指す。</p>	B
担当課	生涯学習課	
評価欄	A・・・十分な成果を得た B・・・ほぼ成果を得た C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要 D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要 E・・・中止、廃止	

項目	② 特色ある地域文化の醸成	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>(1)文化財の保存と活用</p> <p>① 文化財の状況を適時把握し、史跡・名勝など歴史的・文化的景観を構成する資源においては、周辺の自然環境と一体となった保全と活用に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗吉瓦窯跡史跡公園の西側市有地の整地工事を実施する。 ・市内の遺跡3箇所の発掘調査を行った。 ・菅生神社社叢の再生事業を行った。(継続事業) <p>② 文化財保護審議会・文化財保護協会等の団体と協力して、文化財の保護と情報発信の体制づくりを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護協会において、市内及び県外における研修を行い、郷土文化講演会を実施した。 <p>③ 三豊の文化財誌を作成し、文化財を巡る研修や郷土文化講演会を実施するなど、意識啓発を行うとともに文化財に触れる機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三豊の文化財誌は平成20年度において作成(完了)した。 ・旧町で作成した町史・文化財関連書籍の販売の促進をする。 ・宗吉瓦窯跡史跡公園の落成に合わせて、イベント・講演会を開催した。 ・宗吉かわらの里展示館において、焼き物体験教室などのイベントを逐次開催し、古代の暮らしなどを身近に感じられる機会を設けた。 <p>④ 宗吉瓦窯跡史跡公園のオープンに伴い、史跡ボランティアの養成を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元ボランティア団体『宗吉瓦窯会』に施設周辺の管理・ボランティアガイドの実施と合わせて、史跡でのイベントの実施を委託した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 未整備の土地を整備することで景観がよくなり、また、駐車場を設けることで、来場者の便益向上につながった。 ● 史跡公園全体において、効率的な運営管理を図る。 ○ 発掘調査により、遺跡の現状を把握することができ、今後の保存の参考となった。 ● 今後も継続して発掘調査を実施する。 ○ 再生のための苗木の購入のほか、事業(国庫補助)終了後の管理に関するマニュアルを作成した。 ● 地域特有の種を損なうことのないように配慮した管理を行うとともに、国庫や県費の補助事業を活用した、効率的な事業執行を行う。 ○ 研修や講演会により文化財に触れる機会を設けることができ、文化財保護の意識啓発につながった。 ● 今後とも機会をとらえて団体等と協力し、市民の意識向上のために講演会等のイベントを開催する。 ○ 市内外に広く文化財を知らしめ、文化財保護の意識啓発につながった。 ○ 落成イベントには、多くの参加者が訪れ、展示館にも県内外より来訪している。これは、文化財への関心が高まったあらわれだと思われる。 ● 関係部署・機関と連携して、より一層市民が文化財を身近に感じられるようにする。 ○ 市民が率先して史跡と関わりを持つことで、史跡への関心を高めると共に、文化財保護の意識啓発につながった。 ● 『宗吉瓦窯会』との連携をより密接なものとし、効率的な施設運営を目指す。 	A
担当課	生涯学習課	
評価欄	A・・・十分な成果を得た B・・・ほぼ成果を得た C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要 D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要 E・・・中止、廃止	

項目	② 特色ある地域文化の醸成		
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み		評価
<p>(2)芸術・文化の醸成</p> <p>① 市文化協会を主体として文化祭等の成果を発表する場を設けることで、目標を持ち個人だけではなく団体としての資質の向上を図る。 ・市文化協会主催の文化祭【作品展覧会・芸能発表会】を開催。またそれぞれで、アンケートを実施する。</p> <p>② 市内で活動している団体間の交流を深め、仲間づくりを行うことでより幅の広い文化活動の活性化を図る。 ・市文化協会主催の文化祭【作品展覧会・芸能発表会】を開催。またそれぞれで、アンケートを実施する。</p>	<p>○ 作品展覧会は財田町公民館で開催したが、昨年度よりたくさんの人が訪れた。アンケート結果に「感動しました」という意見が多数あり、いい刺激になっていることがわかる。</p> <p>● まだ根強く、各町だけの文化祭でよいという意見があり、来客数も町文化祭のときより少ない。よりたくさんの人に来客してもらうための工夫や広報が必要である。</p> <p>○ 団体間で協力することによって、市文化祭を開催することができた。</p> <p>● 市文化祭をより効率よくするため、また団体間の交流を深めるため、支部以上に部門に重点をおく必要がある。</p>		C
<p>(3)芸術・文化行事などの情報提供</p> <p>① 県との連携を図り、市内学校・施設に対し、文化事業の案内、参加を促す。 ・メール等で周知する。</p> <p>② 市文化協会活動事業を市広報で案内する等、広く文化団体の活動を紹介する。 ・市文化協会所属の全クラブ名と市文化祭の案内を掲載した会報を作成、全戸配布した。また、市広報にも例年どおり市、町の文化祭の案内を掲載する。</p> <p>③ 市文化協会報を作成するなど、団体内での情報提供の場をつくる。 ・市文化協会所属全クラブ名と市文化祭の案内を掲載した会報を作成、全戸配布した。</p>	<p>○ 広く周知できた。</p> <p>● 今後、もっと県との連携をはかり、市内の学校、施設に周知したい。</p> <p>○ 昨年度よりたくさんの人が市文化祭に訪れた。アンケート結果で「広報を見て訪れた」が一番多かった。</p> <p>● まだまだ認知度が少ないので、広報の工夫が必要である。</p> <p>○ クラブに所属したいという問い合わせが何件かあった。文化協会を広く市民に知ってもらう、取り掛かりとなった。</p> <p>● 第2号について全戸配布するかは未定。内容についても協議、検討する。</p>		B
担当課	生涯学習課		
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p> <p style="text-align: right;">E・・・中止、廃止</p>		

項目	③ 地域の教育力の向上、地域の教育機能の活性化	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>(1)子どもを育てる地域づくり</p> <p>① 地区公民館を中心として、世代間交流事業を展開して、地域の歴史・地域の良さを学習することにより、世代間相互で「ありがとう」の感謝の気持ちを培う地域づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の有志や老人会と協力し、週5日制対応事業や子どもを対象とした講座、世代間交流事業など、地区公民館及び分館等を中心とした活動を実施した。 	<p>○ 地域ぐるみで子どもを育てる組織づくり、関係者及び団体との協力体制の確立に寄与できた。</p> <p>● 成果が目に見えにくいものであるため、今後も地道に事業を継続して実施し、さらなる協力団体や人材の拡充に努める。</p>	C
<p>(2)地域で子どもを育てる指導者養成事業の推進</p> <p>① 学校を支援している地域住民や保護者が、教育改革の理念である「生涯学習」を理解し、子どもの育成のために、学校の教育活動や学校運営によりよく参画する態度の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども会、PTA、青少年健全育成市民会議等の各団体で連携を取り、研修会・講演会を実施した。 	<p>○ 地域の指導者の育成、人材確保が行えた。また各事業に参加された方は「生涯学習」や「子育て」、「学校教育」等に関する理解を深めることができた。</p> <p>● 今後は指導者養成の講座内容、機会の充実を図り、人材の育成・確保を図る。</p>	C
<p>(3)子ども会の育成と支援</p> <p>① 自然体験やスポーツ等の様々な体験活動を通じて地域との交流や仲間づくりを行い、豊かな情操教育、子どもたちの主体的な活動支援を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域で子どもとその保護者を対象に、自然体験やスポーツ等11事業を実施した。 <p>② 指導者・育成者に対する研修を通して、子ども会活動の基本理念の浸透、資質の向上を図り、地域の指導者の確保と積極的な活用に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい指導者を対象に研修会を開催し、子ども会の意義や指導者・育成者の役割について考える場を設けた。 <p>③ 子ども会を支援するジュニア・リーダーの養成・確保に努め、リーダーとしての資質の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備品貸出やジュニア・リーダーの派遣事業等を実施し、地域行事等への参加・支援を継続して行った。また、年3回の研修会を開催し、知識・技術の向上を図った。 	<p>○ 各事業に参加した児童は、学校では学ぶことができない地域間・異年齢間での交流、野外活動等貴重な経験を積むことができた。</p> <p>● 組織の効率化、自主運営化等に取り組み、事業の見直し、改善を図りながら継続する。</p> <p>○ 各地域の特色ある子ども会活動について理解を深めることができた。</p> <p>● 研修会を継続して実施し、子ども会活動の基本理念の浸透、資質の向上を図り、地域の指導者の確保と積極的な活用に努める。</p> <p>○ 地域行事等への参加・支援を行うことにより、ジュニア・リーダーの資質向上を図ることができた。また、研修会を通じて、野外活動等の知識・技術を習得することができた。</p> <p>● 新しいジュニア・リーダー会員の確保に努める。主催事業の内容について、参加者のニーズに応えることができるよう見直し・改善を図る。</p>	B
担当課	生涯学習課	
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p> <p>E・・・中止、廃止</p>	

項目	④ 家庭の教育力の向上	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>(1)家庭教育支援・啓発活動</p> <p>① 少子化、核家族化、地域交流の機会が減少する中で、子どもの接し方がわからない、育児に不安を持つ保護者が増える一方、子どもに無関心、過保護者も増えてきており、市内幼稚園、小学校、中学校と連携して講演会等ふれあい事業を実施して、家庭教育の意識の向上と重要性を認識してもらうとともに、家庭における教育力の向上に努める。</p> <p>・家庭教育学級を開催する。</p> <p>② 保護者と子どもたちが一緒に楽しみ、ふれあい、子どもたちに新たな一面を発見できるような機会や場の提供を行う。</p> <p>・家庭教育学級を開催する。</p>	<p>○ 15幼稚園・7小学校・2中学校が家庭教育学級を実施した。それぞれが、外部講師を招いて家庭教育の重要性を伝える講演や子育てに関する講演等を行った。それらの講演等により家庭教育の重要性が再認識できた。</p> <p>● 今後は家庭教育学級を継続して実施するとともに、実施園、学校を増やし、家庭教育の大切さを促す啓発活動をさらに推進する。</p> <p>○ 学級の中で親子で作業を行う活動や運動を取り入れ、保護者と子どもがふれあうことができた。</p> <p>● 今後は家庭教育学級を継続して実施するとともに、保護者と子どもたちがふれあう機会を提供し、家庭教育の大切さを促す啓発活動をさらに推進する。</p>	B
<p>(2)子どもの生活リズム向上</p> <p>① 「早寝早起き朝ごはん」運動を推進し、子どもの望ましい基本的な生活習慣を育成するとともに、生活リズムを向上させ、読書や外遊び・スポーツなど様々な活動にいきいきと取り組んでもらう。</p> <p>・文部科学省「早寝早起き朝ごはん」国民運動リーフレットを市内の幼稚園・小学校・中学校に配布し啓発活動を実施する。</p> <p>② 毎月23日をテレビを見ない「ノーテレビデー」と定め、家族団らんや読書などの機会を増やせるよう推進する。</p> <p>・ノーテレビデーを推進する。</p>	<p>○ リーフレットの配布等による啓発活動により、「子どもの望ましい基本的な生活習慣の育成」について、保護者への良い意識付けになった。</p> <p>● 今後も「早寝早起き朝ごはん」等をさらに推進・啓発していく。</p> <p>○ ノーテレビデーを実施することで家族の団らんの時間ができたり、読書の時間が増えた。</p> <p>● 今後も「ノーテレビデー」等をさらに推進・啓発していく。</p>	B
<p>(3)家庭教育指導者の育成</p> <p>① 家庭教育支援事業の計画・実施を行った、市内の幼稚園、小学校で行われる家庭教育講座や家庭教育学級で、家庭教育の重要性や子どもの生活リズムの向上について指導、助言したりするための人材を育成できるよう、国や県が開催する講座への参加を促し啓発活動を推進する。</p> <p>・家庭教育推進専門員養成講座の受講を進める。</p> <p>・家庭教育推進リーダー研修への参加を進める。</p>	<p>○ 県教委主催の家庭教育推進専門員養成講座を受講して、推進専門員として親同士の学びを取り入れたワークショップ(参加型学習)の普及等を行った。</p> <p>● 今後、家庭教育の重要性や子どもの生活リズムの向上について指導・助言を行っていく。</p>	B
担当課	生涯学習課	
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た B・・・ほぼ成果を得た C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要 D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要 E・・・中止、廃止</p>	

項目	④ 家庭の教育力の向上	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>(4) PTA活動の充実</p> <p>① 会員相互の連携を深め、学習活動・レクリエーション・社会へのボランティア活動等を積極的に推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者研修会を開催する。 ・専門委員会・部会へ参加し、市内幼稚園・小学校・中学校の連携を強化する。 <p>② 地域社会が一体となって子どもたちの健全育成を図れるよう、学校と家庭・地域社会をつなぐ重要なパイプ役となれるよう努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成市民会議・三豊ライオンズクラブと協力し、「青少年健全育成講演会」を実施する。 	<p>○ 指導者研修会は、単位PTAの代表者による活動発表があり、自分の地域の活動や実情について交流した。発表された内容が各会員に新鮮に映り、学校区を越えた連携が深まった。</p> <p>● 今後、市PTA組織の連携強化と指導者研修会等を充実して、さらなる資質の向上を図る。</p> <p>○ 養老孟司先生による「青少年健全育成講演会」は、多数の参加があり大変好評であった。</p> <p>● 今後もひきつづき、少年育成センター・三豊ライオンズクラブと協力して、さらなる青少年の健全な育成を推進していく。</p>	B
<p>(5) 子どもの読書活動の推進</p> <p>① 乳幼児から読書に親しむ環境づくりや、家庭、地域社会、学校など社会全体で読書活動の推進に取り組むため、「三豊市子ども読書活動推進計画」を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員とボランティアが協力しておはなし会等を定期的で開催するなど、読書に親しむ機会を提供した。また、おすすめ本コーナーの設置や季節の本を配置するなど、子どもが利用しやすい読書環境の整備に努めた。図書館だよりを発行するなど、図書館の利用案内を幼・小・中へ配布した。また、学校と連携し読書感想文(画)の募集に取組んだ。職員及びボランティアを対象に、技術・知識向上を目指しておはなし研修会を開催した。 <p>② 絵本を通して親子が触れ合うブックスタート事業を継続して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三豊市に住所があるすべての赤ちゃんを対象に、乳児4か月健診後に絵本を手渡した。 	<p>○ ボランティアによるお話し会を定期的で開催したことにより、子どもたちが図書館に足を運ぶきっかけとなり、読書に対する意欲や関心が高まった。また、おすすめ本のコーナー設置や、図書館だよりを発行したことにより、貸出しが増えた。</p> <p>読書感想画展を実施したことにより、読書を楽しむ機会を提供したことにより、学校等との連携が強くなった。職員及びボランティアを対象としたお話し研修会を実施したことにより、技術や知識の向上につながった。</p> <p>● 今後も「三豊市子ども読書活動推進計画」に基づき、家庭、図書館、学校の連携と図書館ボランティアの協力を得て、子どもの読書活動を推進する。</p> <p>○ 赤ちゃん和絵本を開く楽しい体験とともに、絵本を手渡すことで、赤ちゃんと保護者がゆっくり向き合い、楽しくあたたかい時間をもつきっかけをつくった。</p> <p>● 今後もブックスタート事業を継続して行う。</p>	A
担当課	生涯学習課	
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p> <p style="text-align: right;">E・・・中止、廃止</p>	

項目	⑤ 進んで運動に親しむ機会の充実	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>(1)健康・体力づくり事業の推進</p> <p>① 色々なスポーツが多様化する中で、手軽に楽しく、健康・体力づくりができるようにニュースポーツの紹介を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トランポリン教室を小学生対象に開催する。 ・カローリング、室内ペタンク、パークゴルフ教室等のニュースポーツ教室を開催する。 <p>② 市体育指導委員会と連携し、スポーツ行事を実施する。また、地域スポーツの支援のために、体育指導委員の資質向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんぴら健脚大会を実施する。 ・秋季県外ハイキング大会を実施する。 ・四国地区及び香川県体育指導委員研修会へ参加する。 	<p>○ ニュースポーツの紹介として、普段教わることのないトランポリンの飛び方の教室を小学生対象に開催することで、バランス感覚の向上や運動することの楽しさを伝えることができた。</p> <p>また、カローリング、室内ペタンク、パークゴルフ等の教室を開催し、幅広い年齢層の人に参加してもらうことで、生涯にわたってスポーツを続けていくという意識の高揚を図ることができた。</p> <p>● 普段、全くスポーツをしていない人でも参加したいと思うようなスポーツ企画の立案が必要である。また、市民への周知や開催時期を工夫し、より多くの市民が参加できるように努める。</p> <p>○ だれにでも参加しやすいものとして、健脚・ハイキングを企画、実施することにより多くの市民の参加を頂いた。</p> <p>○ 四国・県・市と研修会に参加することにより、全体的な資質の向上を図ることができた。</p> <p>● 体育指導委員研修会において学んだことにより、市民に還元できるような体育指導委員会の運営を行うよう努める。</p>	C
<p>(2)市長杯等各種スポーツ大会、スポーツ教室の充実</p> <p>① 現在、定期的にスポーツに親しんでいる人のために、市長杯等の各種スポーツ大会の開催について、支援及び協力を行う。また、市民に色々なスポーツに接する機会を増やせるよう、スポーツ教室の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長杯ペタンク大会ほか、15大会(1月19日現在に申請済み)を開催する。 ・ヨット教室を小学校高学年を対象に3回開催する。 ・水泳教室を小学校低学年を対象に10回開催する。 	<p>○ 多くの市長杯大会を開催することにより、多くの市民にスポーツに接する機会を提供できた。</p> <p>● 多くの市長杯大会を主催したが、企画運営全般を主管団体が行っているため、市民への周知が行えていない大会がある。より多くの市民が参加しやすいように支援する。</p> <p>○ 小学校高学年を対象にヨット教室を開催することで、普段あまり体験することのないマリンスポーツの機会を提供することができ、マリンスポーツを身近に感じてもらうことができた。</p> <p>● マリンスポーツの体験としてヨット教室を開催しているが、だんだん参加人数が減ってきているので、より参加しやすい内容を検討する。</p> <p>○ 小学校低学年で、水泳の苦手な生徒を対象に水泳教室を開催したことにより、水泳の苦手な生徒もある程度泳げるようになった。</p> <p>● 体育協会専門部においても様々なスポーツ大会・スポーツ教室を開催し、市民へのスポーツの普及・振興に貢献してもらっているが、さらにスポーツ事業が開催できるようサポートしたい。</p>	C
担当課	生涯学習課	
評価欄	A・・・十分な成果を得た B・・・ほぼ成果を得た C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要 D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要 E・・・中止、廃止	

⑤ 青少年の健全育成

基本方針

地域で見まもり・地域に教わり・地域で育てる

項目	① 青少年教育の充実		
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果	●課題と今後の取組み	評価
<p>(1)少年期の教育</p> <p>① 少年の規範意識や社会的な自律意識の向上を図るために、中学生による「一日補導員」体験や喫煙防止・万引き防止キャンペーン等を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一日補導員」…市内の7中学校から計14人が参加し、ゆめタウン三豊店～JR高瀬駅～三豊警察署を巡回する。(7月31日) ・「未成年者喫煙防止キャンペーン」…市内5カ所のJR駅で実施する。(7月10日) ・「万引き防止キャンペーン」…市内の大型商業店舗で実施する。(12月26日) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各訪問先で、同世代の問題行動の実態を聞き、規範意識や道徳意識の大切さについて改めて考える機会となった。 ● 取組み成果と課題の分析(例:持ち帰った実体験をどう広めることができたのか等)が不十分である。 ○ 「少年を守る会」や三豊警察署等の関係機関と連携して、未成年者等へ直接啓発することができた。 ● キャンペーン期間中を含めて、通年的な啓発活動が必要である。 		B
<p>(2)家庭や地域との連携・支援</p> <p>① 「教育の根源は家庭にあり」を基本とし、関係機関と連携しながら家庭教育の重要性を訴えるとともに、家庭に向けた「子育て支援リーフレット」を作成・配布する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の全幼稚園・小中学校において、今年度の新入園児や児童・生徒の保護者へ入園・入学式の際に配布する。 <p>② 子どもの被害防止に向けて、安全安心パトロールや子ども見守り隊などの地域ボランティア活動に対する協力と支援を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『三豊市子ども・地域安全見守り隊』第1回代表者会を開催する。(9月29日) ・「見守り隊」隊員へ防犯ベストを配布する。(1月) ・青パト会員を対象とした「運転講習会」を実施する。(1・4月) <p>③ 青少年健全育成市民会議により、学校や地域が行う健全育成活動を支援するとともに、あいさつ運動やふれあい活動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツふれあい事業を実施する。(8月1日) ・「家族ふれあい・あいさつ運動」絵画・標語作品募集と表彰を行う。(12月12日) ・表彰作品による「22年啓発カレンダー」の作成・配布をする。(12月～) ・善行青少年表彰・健全育成功労者表彰を実施する。(12月12日) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ この取組みによって、保護者に対して「基本的な家庭教育のあり方」の重要性について啓発を促進できた。 ● 地域の教育力向上のためには、年度初めの取組みに限らず、諸会議の開催時などを活用して、年間を通した啓発活動が必要である。 ○ 各町の実践活動を通じて、問題点や課題について共通認識を持つことができた。 ● 隊員の高齢化や固定化傾向の改善に努める。 ○ 服装の統一化を促進することができた。 ● ベスト着用の徹底を図る。 ○ 一層の「安全・安心活動」推進の一助となった。 ● 「配置基準」の策定等による活動内容の統一化が必要である。 ○ 参加児童数約100人であった。(市スポーツ少年団と共催事業) ● 事業内容の拡充に努める。 ○ 応募作品数・「絵画」151点 「標語」2,007作品であった。 ● 事業内容の拡充に努める。 ○ 「善行青少年」の部(5団体・個人)・「青少年健全育成功労者」の部(3人)を表彰した。 ● 表彰基準の明確化を図る。 		B
担当課	少年育成センター		
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p> <p>E・・・中止、廃止</p>		

項目	① 青少年教育の充実	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>(3)少年育成センターの運営</p> <p>① 少年の健全な育成を図り、非行を防止し、明るい家庭と住みよい地域づくりに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 補導活動を継続的に実施する。(早朝補導・午前補導・昼間補導・小学校周辺パトロール・薄暮補導・特別補導・夜間補導) <p>② 学校・家庭や関係機関・団体との連携強化を図り、中核となって街頭補導と継続指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「子ども安全安心まちづくりボランティアサミット」を2回開催する。(継続協議題…「子どもと携帯電話のあり方」) <p>③ 白ポストによる有害図書等の回収を行うとともに、少年をとりまく環境やたまり場に関する情報交換を密にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「少年を守る会」と連携し、月1回実施する。 ・ 街頭補導の一環として、市内の商業店舗との情報交換を実施する。 <p>④ 少年が抱える問題や悩みの早期発見・解決を図るために、関係機関・学校・家庭との連携を密にし、来所相談・電話相談・訪問相談の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 延べ相談件数…35件 <p>⑤ 青少年の生活行動範囲の拡大に伴い、管外の諸機関との連携をさらに強化していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県少年育成センター所長会を定期的に開催する。 ・ 管内警察署主催による観音寺地区との合同補導を実施する。(12月から月2回程度) 	<p>○ 各学校区ごとに指導・補導體制が拡充され、その結果、通報件数の減少など、犯罪発生の抑止効果が働いた。</p> <p>● 「薄暮補導」等において、各地区補導委員会の自主活動を拡充する必要がある。</p> <p>○ 情報の共有化とともに、相互の連携強化につながった。</p> <p>● いわゆる「有償ボランティア」である補導員と、「青パト」「見守り隊」等の有機的連携の拡充に努める。</p> <p>○ 市内17カ所の白ポストから合計3,026点の有害図書類を回収した。</p> <p>○ 現状認識の共有化が図れた。</p> <p>● 白ポストの施錠被害等が頻繁に発生していることから、設置場所や回収回数等を検討する必要がある。</p> <p>○ 年度途中から、少年相談業務の担当が不在となった。センター職員で対応したが、相談業務の充実には至らなかった。</p> <p>● 専門相談員が配置され相談活動は充実してきたが、相談環境の整備(相談室)は不十分である。</p> <p>○ 県内情報や西讃地区における情報や状況認識の共有化が図られた。</p> <p>● 「県所長会」の継続開催や、少年の行動範囲の広域化に伴い、隣接する観音寺市との「合同補導」を継続する必要がある。</p>	B
担当課	少年育成センター	
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p> <p style="text-align: right;">E・・・中止、廃止</p>	

⑥ 人権教育の推進

基本方針

人権が尊重される住みよい三豊市の実現を目指して

項目	① 学校人権教育の推進	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>(1)保・幼・小・中学校の連携</p> <p>① 定期的に行われている保・幼・小・中学校長会や学校人権教育部会において、人権教育の在り方及び取組み等について情報交換を行い連携を図る。 ・市内の学校を地域3ブロックに分け、地区学校人権教育研究協議会として意見交換を行った。</p> <p>② 学力・進路支援担当及び人権・同和教育主任の研修会を持ち、人権・同和教育の共通理解を図り連携して取り組む。 ・人権教育の教材の活用について、人権教育教材活用検討委員会を開催した。</p>	<p>○ 各地域毎の人権教育の進捗状況が把握できた。 ● 市全体としての意見交換の場づくり及び内容の充実を目指す。</p> <p>○ 各ブロック毎に活用目標を設定し、各校とも実施に向け取り組んだ。 ● 教材の活用について、担当者等の意見交換及び学校間の連携を進め、市全体としての活用計画の策定する。</p>	B
<p>(2)人権教育の充実</p> <p>① 人権教育年間指導計画を作成し、計画的に実施することにより、いじめや差別のない学級・学校づくりに努める。 ・各学校毎に年間の教材活用の実践計画を策定した。</p> <p>② 実践授業の公開とその評価を行うことで、教員の指導力の向上と人権教育の充実を図る。 ・保護者を含めた公開授業を実践した。</p> <p>③ 新規転入職員に対し、研修を実施し、市の実態に学び人権教育の取り組みを見つめ直すことで一人ひとりの資質の向上を図る。 ・ブロック毎の部会・研修会等で実施した。</p> <p>④ 人権・同和教育指導員による授業実践の支援により教職員の指導力を向上させ、人権教育の充実を図る。 ・各ブロック毎の部会・研修会への参加及び指導助言を行う。</p>	<p>○ 前年度より実践計画数が全体的には増加している。また、部落差別に関する教材に取り組む学校も増えてきた。 ● 計画に基づく教材の完全実践及び実践内容の充実を図っていく。</p> <p>○ 公開授業に際して保護者も含めた人権教育を実践でき、事後の討議会においては意見交換も含め授業内容の議論ができた。 ● 全学校での公開授業等の開催。授業内容の向上を目指す。</p> <p>○ ブロック毎で、人権教育の実情の把握や取り組み状況の認識が図れた。 ● 市内全学校を対象にした研修会等の実施を目指す。</p> <p>○ 指導員の指導・助言により教職員の指導力向上が図れた。 ● 全学校での公開授業等の開催。授業内容の指導助言により向上を目指す。</p>	C
担当課	人権教育課	
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た B・・・ほぼ成果を得た C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要 D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要 E・・・中止、廃止</p>	

項目	① 学校人権教育の推進	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>(3)人権教育教材集・人権教育紙芝居の活用</p> <p>① 市作成の人権教育教材集「人権(じんけん)」の活用やその実践報告集などが、全ての学校で有効に利用されることにより地域や学校間の格差の是正及び解消を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校毎に活用計画の策定を求めた。 <p>② 2008年度に作成した就学前の人権教育紙芝居を活用し、幼児への人権・同和教育を推進していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引続き人権教育紙芝居新規2種の作成。就学前(保育所・幼稚園)部会で活用方法について意見交換を行った。 	<p>○ 前年度より教材活用の計画数が全体的には増加している。また、部落差別に関する教材に取り組む学校も増えてきた。</p> <p>● 全学校で人権教材の全ての実践を目指していく。</p> <p>○ 新規紙芝居による人権教育教材の充実及び従前の紙芝居の有効な活用方法の検討が図れた。</p> <p>● 人権教育紙芝居の有効活用の検討。市内全保育所・幼稚園での教材活用の意見交換・検討の場の設定及びその充実を図っていく。</p>	B
担当課	人権教育課	
評価欄	<p>A・・・十分な成果を得た</p> <p>B・・・ほぼ成果を得た</p> <p>C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要</p> <p>D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要</p> <p style="text-align: right;">E・・・中止、廃止</p>	

項目	② 社会人権教育の推進	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
(1)人権教育の組織づくり ① 児童育成組織や自治会組織、婦人団体等の各種社会人団体で人権研修会を実施するなど、社会人を対象に社会教育部会の組織づくりを行い、一般市民の人権・同和教育の推進を図る。 ・市内の学校を含む市民団体や企業による「三豊市人権教育研究協議会」の設立。	○ 市内のあらゆる団体が、研究協議会を通して自主的に人権教育を進めていく場ができた。 ● 協議会の自主的な各種団体への人権教育の取組み及び内容の充実を図る。	B
(2)研修会の充実 ① PTA総会や公開授業の機会を捉え、保護者等への研修会を充実させる。 ・授業参観や公開授業により保護者が人権教育の授業参加を行った。 ② 公民館・隣保館等の社会教育施設において、学習活動の充実を図る。 ・公民館や隣保館で講演会等を開催した。 ③ 身近な人権問題や参加型学習等の内容の工夫・改善を行う研修会の充実を図る。 ・市内全世帯に対して人権啓発のパンフレット等の配布。市広報誌を使って人権意識向上に努めた。	○ 子どもの授業を通して、保護者に人権教育を考える機会を提供することができた。 ● 実践校の拡大及び参加保護者の増加を図る。 ○ 市内の公民館毎に人権講演会を開催できた。 ● 毎年定着した人権講演会等の開催、及び参加人数の増加を図っていく。 ○ パンフレットや広報誌を通して人権意識の向上が図れた。 ● 新規啓発用パンフレットや資料の作成、だれでもが参加できる参加型学習の実施の検討をすすめる。	C
(3)人権教育指導者の育成 ① 社会教育関係団体や公民館等の人権教育指導者の研修会や学校・運動団体との交流研修を充実させる。 ・人権教育指導者養成講座への参加及び教育関係団体、運動団体主催の研修会・講演会等に参加した。 ② 市職員の全員を対象に人権意識・人権感覚の向上のための研修会を継続的に実施する。 ・人事課と共同しての全職員対象の「人権研修会」を実施した。	○ 人権教育指導員要請講座への職員の受講。各種研究協議会へ参加した。 ● 人権教育指導者研修の開催や、小規模の地域での講演会等の開催を図っていく。 ○ 毎年一回の全職員対象の研修の場が定着してきている。 ● 講演内容がマンネリ化しないための講演内容の充実の検討、新規講師の手配及び全職員が講演会に参加できることへの工夫の検討をすすめる。	C
担当課	人権教育課	
評価欄	A・・・十分な成果を得た B・・・ほぼ成果を得た C・・・ある程度の成果を得たが多少の改善検討が必要 D・・・満足のいく成果は得られず事業の見直しが必要 E・・・中止、廃止	

資 料

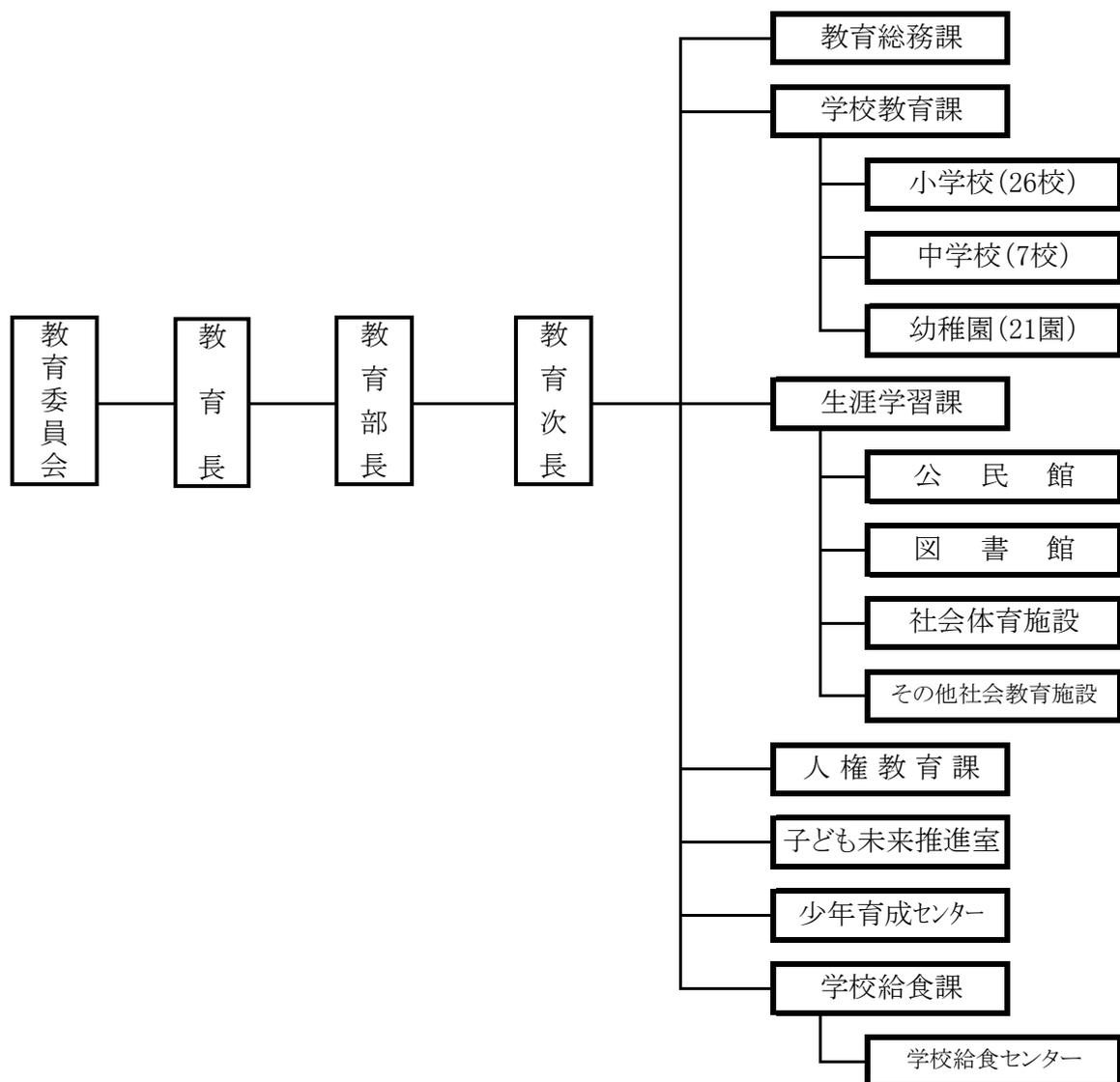
1 教育委員会委員及び組織

(1) 教育委員会委員

職 名	氏 名	教育委員の任期	
委 員 長	(旧) 西村 忠臣	平成18年3月31日	～ 平成22年2月28日
	(新) 高木 謙一	平成22年3月1日	～ 平成26年2月28日
委員長代理	(旧) 武田 耕道	平成19年4月1日	～ 平成22年2月28日
	(新) 三池 幸恵	平成21年3月1日	～ 平成25年2月28日
委 員	建林伊都子	平成20年2月29日	～ 平成24年2月28日
委 員	山崎 隆行	平成22年3月1日	～ 平成26年2月28日
教 育 長	臼杵 正明	平成19年4月1日	～ 平成23年3月31日

(2) 教育委員会の組織

(平成22年4月1日現在)



2 公立学校施設の概要

(1) 小学校

平成21年5月1日現在(単位:人、室、㎡)

学校名	学級数	児童数	本務教員数	本務職員数	建物面積		屋外運動場
					校舎	屋内運動場	
上高瀬小学校	9	212	15	4	3,744	692	15,095
勝間小学校	11	229	18	4	3,259	792	11,359
比地小学校	8	171	14	3	2,811	1,209	21,352
二ノ宮小学校	7	107	11	2	2,847	694	6,912
麻小学校	8	130	12	2	3,299	741	8,204
辻小学校	7	106	10	5	2,066	772	5,281
河内小学校	7	45	8	4	1,924	521	3,318
大野小学校	8	128	13	4	2,918	636	5,472
神田小学校	6	67	9	4	2,299	543	4,621
大見小学校	7	176	11	2	3,558	944	11,743
下高瀬小学校	8	201	13	3	7,867	①1,222	8,778
吉津小学校	6	157	11	2	3,527	922	17,357
桑山小学校	7	142	11	2	2,027	836	5,869
比地大小学校	6	101	9	3	1,803	836	5,308
笠田小学校	7	137	11	2	2,223	843	7,956
上高野小学校	8	137	14	3	2,224	836	7,820
本山小学校	6	141	10	2	2,275	729	6,334
松崎小学校	8	176	14	5	3,695	560	3,244
詫間小学校	19	492	30	10	6,583	996	9,889
大浜小学校	5	36	7	4	1,959	②1,091	10,749
箱浦小学校	5	27	6	2	1,738	519	4,300
栗島小学校	平成16年度より休校				1,119	-	1,424
仁尾小学校	14	322	23	6	5,871	962	12,565
曾保小学校	7	41	8	4	1,719	587	3,154
財田上小学校	7	110	10	2	2,417	700	5,131
財田中小学校	7	87	10	2	2,085	619	4,342
計	198	3,678	308	86	77,857	19,802	207,577

① 下高瀬小学校の屋内運動場は、三野町体育センターが兼ねている。

② 大浜小学校の屋内運動場は、みどりの村管理センターが兼ねている。

(2) 中学校

平成21年5月1日現在(単位:人、室、㎡)

学校名	学級数	生徒数	本務教員数	本務職員数	建物面積		屋外運動場
					校舎	屋内運動場	
高瀬中学校	15	407	29	6	8,410	1,805	13,676
三野津中学校	11	267	26	3	6,686	1,035	13,396
豊中中学校	10	305	24	4	4,706	③3,389	10,930
詫間中学校	11	311	27	7	7,961	1,252	13,620
粟島中学校	平成18年度より休校				969	350	1,207
仁尾中学校	7	171	19	3	4,606	898	15,781
和光中学校	6	120	15	3	3,933	1,442	10,562
計	60	1,581	140	26	37,271	10,171	79,172

③ 豊中中学校の屋内運動場は、豊中町体育館が兼ねている。

(3) 幼稚園

平成21年5月1日現在(単位:人、室、㎡)

幼稚園名	学級数	園児数	本務教員数	本務職員数	建物面積	運動場面積
上高瀬幼稚園	5	86	8	-	783	2,438
勝間幼稚園	3	64	7	-	678	1,605
比地二幼稚園	3	70	5	-	651	778
二ノ宮幼稚園	3	57	5	-	486	1,346
麻幼稚園	3	59	7	-	873	541
辻幼稚園	3	37	4	-	551	778
河内幼稚園	2	14	3	-	382	897
大野幼稚園	3	30	5	-	590	1,110
神田幼稚園	3	14	4	-	415	894
大見幼稚園	4	76	5	-	857	2,751
下高瀬幼稚園	4	66	6	-	751	1,405
吉津幼稚園	3	64	6	-	832	2,094
豊中幼稚園	12	270	23	1	2,941	2,420
松崎幼稚園	3	53	4	-	531	1,891
詫間幼稚園	6	113	8	-	1,181	770
大浜幼稚園	2	8	3	-	668	511
箱浦幼稚園	1	5	3	-	363	157
粟島幼稚園	平成13年度より休園				226	262
平石幼稚園	5	105	7	-	1,141	1,800
曾保幼稚園	3	12	4	-	402	472
財田幼稚園	4	84	7	1	825	400
計	75	1,287	124	2	16,127	25,320